

AOR[®]

The New Concept

AR8200

ワイドレンジレシーバー
取扱説明書

応用編



AR8200

ワイドレンジレシーバー
取扱説明書

応用編

目次

応用編 (本書)



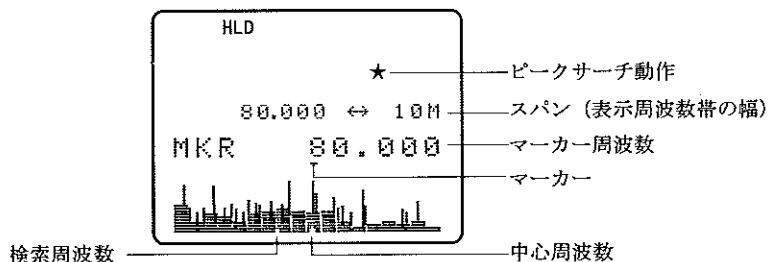
第5章 便利な受信動作	59	安全上のご注意	6
1 バンドスコープ	60	第1章 使用前の確認・準備 ...	9
2 プライオリティ ch	63	1 使用上のご注意	10
3 セレクト・スキャン	65	2 操作上のご注意	11
第6章 動作環境設定	67	3 付属品	12
1 サーチ、スキャン時のグループ		4 各部の名称とはたらき	13
環境とリンクの設定	68	5 電源について	14
2 VFOサーチ時の		6 受信準備	16
動作環境設定	74	第2章 ボタン、キー、画面	17
3 メモリ chバンクの設定変更 ..	78	1 側面パネルボタンのはたらき	18
第7章 スキャン、サーチの		2 キーボードのはたらき	19
編集、削除	81	3 画面表示および意味	23
1 スキャン、サーチデータの編集	82	4 よく使うキー	25
2 受信中のメモリ chの消去...	88	第3章 基本的な受信方法	27
3 受信中のサーチバンクの消去	89	1 サーチ	28
4 登録内容の消去・解除	90	◆ バンク番号の入力方法	31
5 周波数パス編集	93	2 周波数パス	32
第8章 その他の登録	97	3 メモリ ch読み出し	33
1 アッテネータ	98	4 スキャン	35
2 ノイズリミッタ	99	5 メモリ chパス	37
3 AFC	100	6 VFO	38
4 オフセット	101	7 2VFO	39
5 ステップ・アジャスト	103	8 VFOサーチ	41
6 受信機の操作設定(コンフィグ)	106	第4章 実際に受信してみる	43
7 スリープ	111	1 VFO、2VFO時の	
8 便利な操作	112	周波数入力	44
第9章 知っておきたいこと	117	2 サーチバンクの登録	46
1 特殊操作	118	◆ タイトル文字・	
2 故障かな? と思う前に	119	記号の入力方法	50
3 オプション端子	120	3 メモリ chの登録	51
4 オプション	121	4 受信モードの	
5 オプションの操作	122	マニュアル(手動)設定 ...	54
6 注意事項	132	5 周波数ステップの	
7 アフターサービスについて ..	134	マニュアル設定	55
8 AR8200 一般仕様	135	6 オートモードの再設定	57

5-1	バンドスコープ	60
1)	波形を表示させる	60
2)	表示の切り替え	61
3)	中心周波数を変える	61
4)	スパンを変える	61
5)	マーカー周波数を 受信する (モニター)	62
6)	ピーク・サーチ	62
7)	モニター周波数を2VFOに移す ..	62
8)	モニター周波数をVFOに移す ..	62
9)	バンドスコープの波形を記録する ..	62
10)	記録したバンドスコープの 波形を見る	62
5-2	プライオリティch	63
1)	プライオリティch機能の動作	63
2)	プライオリティchの登録	63
3)	インターバル時間の登録	64
5-3	セレクト・スキャン	65
1)	セレクト・スキャンを 動作させる	65
2)	セレクト・スキャンへ メモリchを登録する	65
3)	セレクト・スキャンの chを編集する	65

5-1 バンドスコープ

SCOPE キーを押す

- 🔍 バンドスコープは、現在受信している電波の周囲にどんな電波が出ているかを調べる機能です。
受信している電波を中心にして、指定された周波数帯（スパン）内の受信信号の強さを波形で表示します。



- バンドスコープ画面で一番下のライン中央のいつも欠けている部分が、中心周波数です。
- 移動する欠けている点が現在検索している周波数です。
- バンドスコープの表示上面の逆三角形の表示がマーカーです。

● スパンについて

検索する周波数帯の幅をスパンと呼び、[▲] [▼] キーによって選択できます。

a. スパンが 10 MHz ~ 500 kHz の場合

10 kHz ステップ、12 kHz バンド幅（測定帯域幅 = IF フィルターの通過帯域幅）で測定します。

10 MHz 時などでは1ドットが140 kHz になり、その内の最大レベルを表示します。（MONI キーを押した場合は最大レベルの周波数を受信します）
スパンを変えた時は今まで測定されていた波形内容を拡大、縮小します。

b. スパンが 200 kHz ~ 100 kHz の場合

2 kHz ステップ、3 kHz バンド幅で測定します。

操作方法

1) 波形を表示させる

1. **SCOPE** キーを押す。

◎ それまでに受信していた周波数が中心周波数となり、低周波数（左側）から高周波数（右側）へと電波を調べ、点で波形を描きます。

2. [◀] [▶] キーを動かすとマーカーが移動する。

■ バンドスコープを行っている時は受信音は出ません。

■ **SCAN**、**SRCH**、**2VFO** キーなどを押すと中止します。

2) 表示の切り替え

表示にはリアル・タイム表示とピーク・ホールド表示があります。

- リアル・タイム表示 = 受信した時点の信号レベルを表示する。
ピーク・ホールド表示 = 今までの最高信号レベルを表示する。

(F) + **(SCOPE)** キーを押す。

◎ **[HLD]** が表示されるとピーク・ホールド表示になります。

◎ 再度 **(F)** + **(SCOPE)** キーを押すとリアル・タイム表示に戻ります。

3) 中心周波数を変える

バンドスコープの中心周波数を変更するには次の3つの方法があります。

- [◀]** **[▶]** キーでマーカーを表示の端に移動して、同じ方向に連続して押す。
◎ スパンが $10\text{MHz} / 200\text{kHz}$ の場合に有効です。
スパンが他の周波数幅の場合は 10MHz で測定した $\pm 5\text{MHz}$ または、
 $\pm 200\text{kHz}$ 範囲内の移動しかできません。
- [数字キー]** で中心周波数を入力して **(ENT)** を押す。
- [ダイヤル]** を回す。
◎ スパンの周波数単位で中心周波数が移動します。

■ 中心周波数を変えるとピーク・ホールドの波形はクリアされます。

4) スパンを変える

- [▼]** キーを押すとスパンは狭くなる。
◎ マーカーを中心にスパンの範囲で受信状況が表示されます。
($10\text{MHz} \sim 500\text{kHz}$ の範囲)
◎ この時広いスパンで測定していた範囲はすぐに表示されます。
($10\text{MHz} \sim 500\text{kHz}$ の範囲と $200\text{kHz} \sim 100\text{kHz}$ の範囲)
- [▲]** キーを押すとスパンは広くなる。

■ $10\text{MHz} \sim 500\text{kHz}$ と $200\text{kHz} \sim 100\text{kHz}$ のスパンでは波形表示の連続性がありません。

5) マーカー周波数を受信する (モニター)

バンドスコープ状態で **(MONI)** キーを押す。

◎ バンドスコープにする直前の受信モードで受信します。

◎ オートモードの場合はオートモードが直前に指定していた受信モードで受信します。

6) ピーク・サーチ

バンドスコープ波形の最も高いレベルの周波数にマーカーを移動させる機能です。

1. バンドスコープ状態で、(SCOPE) キーを1秒間押す。

2. [▶] キーを押すと次に高いレベルの信号周波数に移る。

◎同じ信号表示レベルがあった場合は低い周波数(左)側から表示します。

◎同じレベルがなかったら次に強い信号表示に移ります。

◎ピークサーチ動作時には[★]が表示されます。

■100kHzのスペンには使用できません。

■[▲][▼]キーを押すなどの操作を行うと解除されます。

■再度(SCOPE)キーを1秒押すと解除されます。

7) モニター周波数を2VFOに移す

バンドスコープ状態で(F)+(2VFO)キーを押す。

◎受信していた周波数が2VFOの上段に表示されます。

◎この操作によりメモリch書き込み、周波数の微調整、受信モードの変更ができます。

8) モニター周波数をVFOに移す

バンドスコープ状態でMONIキーを押しながら(ENT)キーを押す。

9) バンドスコープの波形を記録する

バンドスコープ状態で、(ENT)キーを1秒間押す。

◎ピークホールド状態で長時間受信した場合などの受信波形を記録することができます。

■本体内部のメモリには1つの波形をメモリできます。

■スペン200kHz以下の波形は記録できません。

10) 記録したバンドスコープの波形を見る

バンドスコープ状態で、(F)+(SCOPE)を1秒間押す。

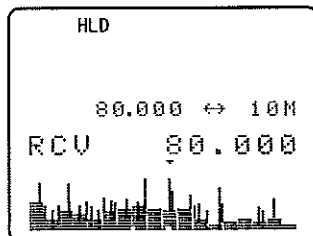
■バンドスコープ波形を見る場合はスイープ(掃引受信)は行いません。

マーカー周波数を受信しています。

■波形の拡大、ピークサーチなどもできます。


■(ENT)キーを押すと表示画面の状態ですイープを開始します。

■スペンを200kHz以下にすると、波形が記録されていないためスイープを開始します。



5-2 プライオリティ ch

(F) + (4 DN) キーを押す

 プライオリティ ch 操作とは、優先チャンネル受信機能のことで、指定されたメモリ ch を最優先チャンネルとして、一定のインターバルで受信チェックを行い、もし信号が確認できた場合、自動的に受信する機能です。

- スキャン、サーチ、メモリ ch 読み出し、各 VFO いずれの場合でも、プライオリティ ch をセットしておくことができます。
- プライオリティ ch の通信が終了しましたら元の動作に戻ります。
- この機能はバンドスコープ動作との共用はできません。

操作方法

1) プライオリティ ch 機能の動作

1. **(F) + (4 DN)** キーを押す。
 ◎ 画面に「PRI」と表示され、プライオリティ動作になります。
2. 再度 **(F) + (4 DN)** キーを押すとプライオリティ動作が解除される。
 ■ プライオリティ動作は受信モードを 2 VFO、スキャン、サーチなどに変えても引き続き動作を続けます。

プライオリティ ch 受信表示例

```

(PRI)
                                     AUT
PRIO NFM
                                     145.0000
144M HAMBAND
S _ _ _ _ _
  
```

2) プライオリティ ch の登録

登録されているメモリ ch の中から、1 チャンネルをプライオリティ ch として登録します。

1. **(F) + (4 DN)** キーを 1 秒間 押す。
 ◎ 「PRIO SET」と表示され、プライオリティ ch の登録モードに入ります。
 ◎すでに登録されているプライオリティ ch の情報が下 2 行に表示されます。

プライオリティ ch 登録表示例

```

                                     AUT
PRIO SET
B12 145.0000
144M HAMBAND
INTERVAL 5s
  
```

2. 新たにプライオリティchにするメモリchのバンクおよびチャンネル番号を選択する。
(2通りの方法がある)

a. [数字キー] で入力する

例 ≡ (1AK) (2BL) (3CM) A 2 3 チャンネルが選ばれる。

b. [◀] [▶] キーでバンクを選び、[ダイヤル] で指定のメモリch番号を選択する。

◎周波数とテキスト内容が4行目に表示されます。

◎インターバル時間を変更しない場合は、ここで (ENT) キーを押して登録します。

3) インターバル時間の登録

インターバル時間はプライオリティchをチェックしに行く間隔です。(下図を参照)

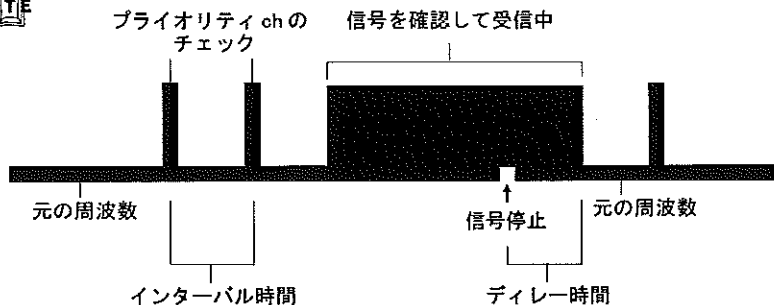
1. [▼] キーを押して [INTERVAL] の行にカーソルを移す。

2. [ダイヤル] でインターバル時間を選ぶ。

◎インターバル時間は1秒から99秒の間で登録することができます。

◎大体3～6秒位が適当でしょう。(工場出荷時は5秒に登録されています。)

3. (ENT) キーで登録する。



◎プライオリティchは元のメモリchとは別に登録されます。

元のメモリchの内容を変更したり、削除した場合でもプライオリティchの登録内容は変更されません。

もし変更したメモリchと同じにしたい場合は、再度登録し直してください。

◎元の周波数を受信中にブツ、ブツと音がする場合があります。

5-3 セレクト・スキャン

F + **5E0** キーを押す

☞ セレクト・スキャンとは、メモリ ch のなかでとくに登録されたメモリ ch だけを、バンクなどとは関係なくスキャンする機能です。

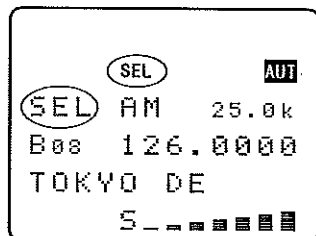
操作方法

1) セレクト・スキャンを動作させる

F + **5E0** キーを押す。

- ◎画面に「SEL」と表示され、セレクト・スキャンを開始します。
- ◎**SCAN**、**SRCH**、**2VFO** キーなどを押すと中止します。

セレクトスキャン受信表示例



2) セレクト・スキャンへメモリ ch を登録する

スキャンで受信中、または、メモリ ch 読み出し時に受信しているメモリ ch を登録します。

F + **PASS** キーを押す。

- ◎画面に「SEL」と表示され、そのメモリ ch がセレクト・スキャンに登録されます。
- ◎登録の取り消しは同じメモリ ch で再び、**F** + **PASS** キーを押します。
 - セレクト・スキャンには最大100チャンネル登録できます。
 - セレクト・スキャンに登録されたメモリ ch はメモリ ch ・パスされていても受信されます。

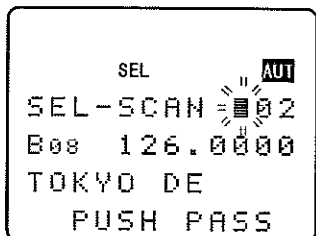
3) セレクト・スキャンの ch を編集する

セレクト・スキャンに登録されたメモリ ch の削除、追加、変更をまとめて行います。

F + **PASS** キーを 1 秒間 押す。

- ◎「SEL-SCAN」と表示され、セレクト・スキャン編集モードになります。
- ◎「SEL-SCAN」表示の後に、登録順の ch 番号が表示されます。
セレクト・スキャンはこの登録順に受信して行きます。

セレクトスキャン編集表示例



a. メモリ ch 番号の登録解除

セレクト・スキャンに登録されたメモリ ch を解除します。

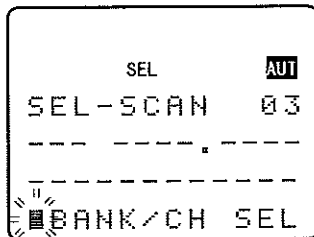
- ① セレクト・スキャン編集モードで解除したいメモリ ch 番号を [ダイヤル]、または [◀] [▶] キーで捜す。
- ② (PASS) キーを押すと、そのメモリ ch の登録を解除する。
■ すべてのセレクト・スキャンの登録を解除する方法もあります。
(☞ 7-4 P.92 参照)

b. セレクト・スキャンへの追加登録

セレクト・スキャンするメモリ ch を追加登録します。

- ① セレクト・スキャン編集の時に [ダイヤル] を回し、最後の番号を表示させる。
◎ 画面がブランク [----] になります。
◎ 1 つも登録されていない場合は [00] を表示します。
- ② [▼] キーを押すと、[BANK/CH SEL] と表示される。
- ③ [ダイヤル]、[◀] [▶]、または [数字キー] で、登録したいメモリ ch 番号を捜す。
- ④ (PASS) キーを押すと、そのメモリ ch が追加登録される。

最後の番号の表示例



c. セレクト・スキャン編集の終了

(CLEAR) キーを押す。

- ◎ 直接 (2VFO)、(SCAN)、(SRCH) キーなどを押しても終了します。

6-1	サーチ、スキャン時の グループ環境とリンクの設定 . . .	6 8
1)	グループ環境番号の確認・選択	6 9
2)	バンクリンクの選択	7 0
3)	ディレー時間の設定	7 0
4)	レベル・スケルチの設定	7 1
5)	ボイス・スケルチの設定	7 2
6)	フリーの設定	7 2
7)	オート・ストア	7 2
8)	モード・スキャン	7 3
9)	設定の登録	7 3
6-2	VFOサーチ時の動作環境設定 . . .	7 4
1)	VFOスキャン	7 4
2)	ディレー時間の設定	7 5
3)	レベル・スケルチの設定	7 5
4)	ボイス・スケルチの設定	7 6
5)	フリーサーチの設定	7 6
6)	オート・ストア	7 7
7)	クイック・メモ	7 7
8)	設定の登録	7 7
6-3	メモリ chバンクの設定変更	7 8
1)	メモリ chバンクを選ぶ	7 8
2)	バンクタイトルの変更	7 8
3)	メモリ ch数の変更	7 9
4)	メモリ chバンクの保護	7 9
5)	設定の登録	8 0

6-1 サーチ、スキャン時の グループ環境とリンクの設定

F + **SRCH** キーを押す (サーチ環境を登録・変更する場合)

F + **SCAN** キーを押す (スキャン環境を登録・変更する場合)

- ☞ サーチ、スキャン時の動作環境を細かく設定する操作です。
動作環境は、サーチ、スキャン、各10通りのグループ環境 (番号0~9まで) に設定することができます。
各バンクを、最適なグループ環境の中に登録しておくことで、番号を選択すれば、いつでもそのバンクに適した受信環境が得られます。
複数のバンクを一つのグループ環境番号に登録すると、バンクがリンクされ、登録した番号で受信すれば、順を追って自動的にサーチやスキャンをします。

■工場出荷時は、グループ環境番号0が初期設定用の動作環境としてセットされています。
グループ環境番号0は、設定変更する事はできません。

■サーチ、スキャンそれぞれ以下のグループ環境項目が設定できます。

◎サーチ環境

内容	表示	設定値範囲—太文字は初期値
1) グループ環境番号選択	SRCH-GROUP	0~9
2) バンクリンク選択	BANK LINK	A~T/a~t
3) ディレイ時間 (秒)	DELAY	OFF/HOLD/0.1~2~9.9
4) レベル・スケルチ	LEVEL	OFF/1~255
5) ボイス・スケルチ	VOICE	OFF/1~255
6) フリー・サーチ	FREE	OFF/01~60秒
7) オート・ストア	AUTO STORE	ON/OFF
8) Jバンク削除	DELETE J	

◎スキャン環境

内容	表示	設定値範囲—太文字は初期値
1) グループ環境番号選択	SCAN-GROUP	0~9
2) バンクリンク選択	BANK LINK	A~J/a~j
3) ディレイ時間	DELAY	OFF/0.1~2~9.9
4) レベル・スケルチ	LEVEL	OFF/1~255
5) ボイス・スケルチ	VOICE	OFF/1~255
6) フリー・スキャン	FREE	OFF/01~60秒
7) モード・スキャン	MODE SCAN	ALL/各受信モード

■動作環境とバンクリンクの設定例

設定表示

グループ環境番号 1
A B d e f
ポーズ時間 10秒
オートストア ON

グループ環境番号 2
A C D F J
レベル・スケルチ 92
ボイス・サーチ 125

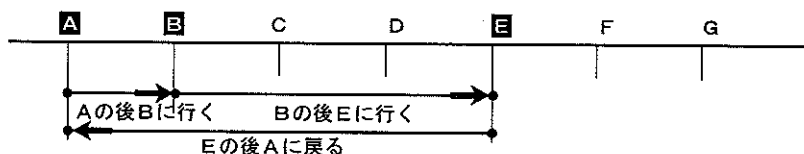
グループ環境番号 3 (リンクしない)
ディレー時間 5秒

■バンクリンクを登録すると？

各グループ環境に複数のバンクを登録しておくことによってリンクされ、その中のひとつのバンクを選ぶことにより、次々と登録されたバンクを移動して受信します。

- ◎ひと通りバンクを検索し終わったら最初のバンクに戻り、検索を繰り返します。
- ◎リンクされていない単独のバンクなら、そのバンクを繰り返し検索します。
- ◎もし選択されたバンクのメモリchがすべて消えていたら、すぐ次のバンクに移ります。
- ◎リンクされていても、どのバンクにもメモリchが見つからない場合は、その前に受信していたバンクを検索します。

例 A、B、Eがリンクされた場合



操作方法

各項目へは [▲] [▼] キーで移動

1) グループ環境番号の確認・選択

[SR][1]、[SC][1] (ショートカット)

1. **(F)** + **(SACH)** キーを押す (サーチ環境を登録する場合)
- (F)** + **(SCAN)** キーを押す (スキャン環境を登録する場合)

◎このとき画面1行目の右に表示される番号が、現在のグループ環境番号です。確認後、設定内容に変更の必要のない場合は **(ENT)** キーを押します。

2. [**◀**] [**▶**] キー、または [ダイヤル] で、設定内容を登録、変更するグループ環境番号を選択する。

2) バンクリンクの選択

[SR] [1], [SC] [1]

1. [▼] キーを押してアルファベットが順に並んだ行にカーソルを移動する。
◎4行目に「BANK LINK」と表示されます。

2. 登録したいバンクのアルファベットに対応した[数字キー]を押す。
◎反転表示(白抜き文字)され、アルファベットのバンクがリンクされます。

例 4DN キーで「D」の表示が反転「D」、もう一度押すと元にもどります「D」。
サーチのMバンクの場合は、通常のバンク指定と同様に(1AK)(3CM)で入力できます。

■ [◀] [▶] [▲] [▼] キーでカーソルを移動し、(PASS) キーを押しても選択できます。

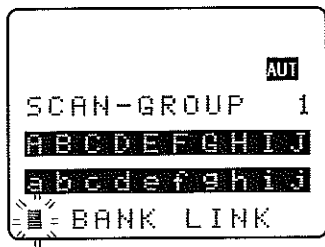
3. [▼] または (Aa) キーでカーソルを下げる。

◎小文字バンクの登録を大文字バンクと同じように行います。

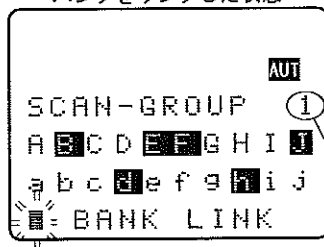
(Aa) キーは大文字、小文字を切り替える役目をします)

例

すべてのバンクをリンクした状態



B, E, F, J, d, h,
バンクをリンクした状態



グループ環境番号

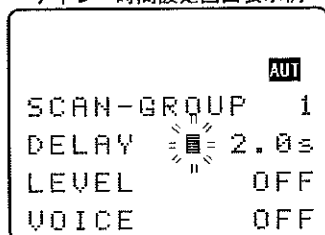
3) ディレー時間の設定

[SR] [2], [SC] [2]

受信信号がなくなって(SQが閉じて)から次の検索を開始するまでの時間を設定します。

1. [▼] キーを押して「DELAY」の行にカーソルを移す。

ディレー時間設定画面表示例



2. 次のいずれかの操作により設定を変更する。

a. **(PASS)** キーで [2. 0秒 / OFF / HOLD (サーチのみ)] を選択して切り替える。

■ HOLD は一度信号で停止するとそのまま停止し続ける設定です。
(スキャン設定項目にはありません。)

b. [ダイヤル] を回して 0. 1 秒単位で目的の秒数を設定する。

■ 時間設定範囲は、OFF、0. 1 ~ 9. 9 秒です。

c. [◀] [▶] キーで、1 秒単位で目的の秒数に設定する。

■ デイレー時間の設定が短いと相手の応答を待たずに次の周波数に移ってしまい、逆に、長すぎると次の周波数に移るのが遅くなります。

4) レベル・スケルチの設定

(LSQ) [SR] [3], [SC] [3]

信号の強さを指定し、それより強い電波をキャッチした時に停止して受信させる設定です。

1. [▼] キーを押して [LEVEL] の行にカーソルを合わせる。

2. 次のいずれかにより設定変更する。

a. [◀] [▶] キーで 10 単位で設定する。

b. [ダイヤル] を回して 1 単位で目的の値に合わせる。

c. **(PASS)** キーで [OFF] にする。

■ 指定範囲は、OFF、1 ~ 255 です。

■ 実際の設定値は (120 ~ 230) 内で指定して下さい。

■ [0] は [OFF] となります。

■ 数字の前に [*] が表示された時は、設定時に受信している信号を検出していることを表しています。

■ レベル・スケルチが設定されると画面上部に [LSQ] と表示されます。



指定する数値は [Sメーター] に比例します。数値が大きいほど強い信号でないと停止しません。

■ Sメーターの振れと値の関係

S	1	2	3	4	5	6	7
値	124	141	154	168	178	186	194
S	8	9	10	11	12	13	14
値	199	203	206	208	210	212	214

(値は予告なく変更することがありますのでご了承ください)

5) ボイス・スケルチの設定

(VSQ) [SR] [4]、[SC] [4]

信号は受信しているが、音声などが無い状態の時に、無変調と判断して次の電波の検索に行きます。無変調と判断するボリューム値を設定するのがボイス・スケルチです。

- 受信状態や受信モードによりボイス・スケルチの設定を行ってください。
- この設定を行う場合は目的の電波、または同程度に聞こえる電波を受信しながら行います。(音量ボリュームには関係しません。)

1. [▼] キーを押して、[VOICE] の行にカーソルを合わせる。

2. 次のいずれかにより設定変更する。

- [ダイヤル] を回して1単位で目的の値に合わせる。
- [◀] [▶] キーで10単位で目的の値に合わせる。
- (PASS) キーで [OFF] にする。

■数字の前に [*] が表示された時は、設定時に受信している信号の音声などを検出していることを表しています。(話している時に点灯し、会話がとぎれた時に消える程度が適当です。)

■設定範囲は OFF、1～255 です。

実際の設定値は (1～160) 内で指定して下さい。

[0] は [OFF] になります。

■ボイス・スケルチが設定されると画面上部に [VSQ] と表示されます。

6) フリーの設定

(FRE) [SR] [5]、[SC] [5]

信号を受信して停止していても、指定時間が経過したら、次の周波数の検索を開始します。その時間を設定するのがフリーです。

1. [▼] キーを押して、[FREE] の行にカーソルを合わせる。

2. 次のいずれかにより設定変更する。

- (PASS) キーで、[5秒/OFF] を切り替える。
- [ダイヤル] を回して1秒単位で目的の値に合わせる。
- [◀] [▶] キーで10秒単位で目的の値に合わせる。

■時間の設定範囲は OFF～60秒 です。(00秒は [OFF])

■サーチのディレイ時間で [HOLD] を選択した場合はフリーは無効です。

■フリーが設定されると画面上部に [FRE] と表示されます。

7) オート・ストア

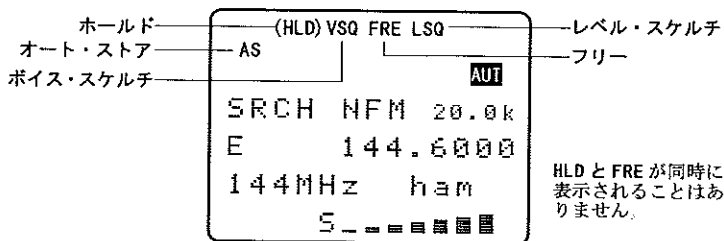
(サーチのみ) [SR] [6]

サーチ時に受信した周波数を次々と自動的にメモリ ch の [J] バンクに登録していく機能です。

1. [FREE] の行から [▼] キーを押すと、[AUTO STORE] の画面になる。

2. [◀] [▶] キーまたは、[ダイヤル] で [ON/OFF] を反転させて選ぶ。

オート・ストアまで設定した時の受信表示例



- もし同じ周波数が[J]バンク内のメモリchに書き込まれていたら、新たに登録しません。(上下約±10kHz以内なら同じ周波数とみなします。)
- 登録されたメモリchには、登録時のサーチバンクのタイトルが付きます。
- [J]バンクに空き(ブランク)のメモリchがない場合は登録できません。
- オート・ストアが設定されると画面上部に「AS」と表示されます。

- [J]バンクのメモリchを消去するには、
 1. [▼]キーを押して「DELETE J」の行にカーソルを移動する。
 2. (PASS)キーを押すと[J]バンクの内部chすべてが削除される。

8) モード・スキャン

(スキャンのみ) [SC] [8]

指定された受信モードで登録されているメモリchのみをバンク内から選んでスキャンする機能です。

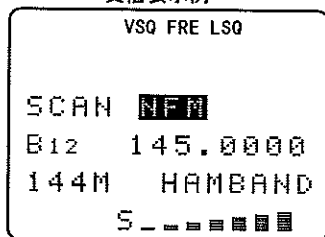
1. [▼]キーを押して、[フリー設定]画面から「MODE SCAN」にカーソルを合わせる。
2. [◀] [▶]キー又は[ダイヤル]で目的の受信モードを選ぶ。

◎指定できる受信モードは以下の通りです。
 ALL WFM NFM SFM WAM
 AM NAM USB LSB CW

■モード・スキャンが設定されると画面のモード表示が反転表示されます。

◎ (PASS)キーを押すと「ALL」になります。
 ALLはすべてのモードを指定するので、モード・スキャン機能の解除を意味します。

モードスキャン設定後の
 受信表示例




9) 設定の登録

設定を登録する場合は、変更後に (ENT) キーを押す。

(CLEAR) キーは今までの操作を取り消して、登録を行いません。

6-2 VFOサーチ時の動作環境設定

F + **2VFO** キーを 1 秒間 押す

 VFO、2VFO、VFOサーチ時の動作環境を細かく設定する操作です。

■動作環境設定には次の8項目があります。

内容	表示	設定値範囲—太文字は初期値
1) VFOスキャン	VFO SCAN	ON/OFF (反転文字)
2) ディレイ時間	DELAY	OFF/HOLD/0.1~9.9
3) レベル・スケルチ	LEVEL	OFF/1~255
4) ボイス・スケルチ	VOICE	OFF/1~255
5) フリー・サーチ	FREE	OFF/01~6.0秒
6) オート・ストア	AUTO STORE	ON/OFF (反転文字)
7) Jバンク削除	DELETE J	
8) クイック・メモ	QUICK MEMORY	OFF/10~99.0秒 (16分30秒)

操作方法

各項目へは [**▲**] [**▼**] キーで移動

1) VFOスキャン

2VFO時に、上側に表示された信号を優先的に検索しながらも、定期的の下側の信号をチェックしに行く機能です。この設定を行うことにより2VFOの2つの周波数をほぼ同時に監視することができます。

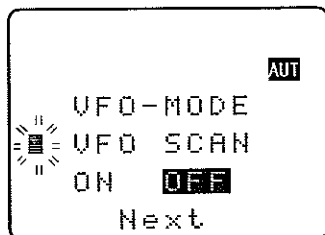
1. **F** + **2VFO** キーを1秒間押す。

◎画面に「VFO-MODE」と表示され、設定モードになります。

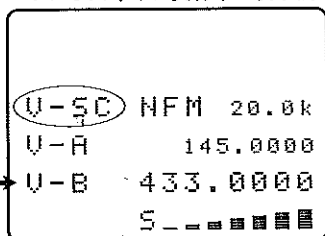
2. **PASS**、または [**◀**] [**▶**] キーを押して「ON/OFF」を選択する。

◎反転文字が有効です。

VFO動作環境設定画面



VFOスキャン実行中の表示例



この周波数を受信している →

- 上側の信号を受信状態 (SQ開) の場合には、下側の信号は検索しません。
- 上側の信号を受信していない状態 (SQ閉) の場合は、プライオリティ ch で設定したインターバルで下側の信号を受信しに行きます。
- 下側の信号を受信した場合は周波数表示が大きくなり、逆に今度はそのインターバルで、上側の信号を検索しに行きます。
- VFOスキャンを設定した場合はプライオリティ ch 機能は解除されます。

2) デイレー時間の設定

[2V][1]

VFOサーチやVFOスキャン時に、受信信号がなくなって (SQが閉じて) から次の検索を開始するまでの時間を設定します。

1. [VFO-MODE] 画面から [▼] キーを押して、[DELAY] の行に移動する。
2. 次のいずれかにより設定変更する。
 - a. (PASS) キーで [2.0秒/OFF/HOLD (VFOサーチのみ)] を切り替える。
 - HOLD : 一度信号で停止するとそのまま停止し続ける。
 - b. [ダイヤル] を回して 0.1 秒単位で目的の秒数にする。
 - 時間設定範囲は、OFF、0.1~9.9 秒です。
 - c. [◀] [▶] キーで 1 秒単位で目的の秒数にする。
 - デイレー時間の設定が短いと相手の応答を待たずに次の周波数に移ってしまい、逆に、長すぎると次の周波数に移るのが遅くなります。

3) レベル・スケルチの設定

(LSQ) [2V][2]

信号の強さを指定し、それより強い電波をキャッチした時に停止して受信する設定です。VFOサーチやVFOスキャン時だけでなく、2VFOやVFO時にも有効となります。

1. [▼] キーを押して [LEVEL] の行にカーソルを合わせる。
2. 次のいずれかにより設定変更する。
 - a. [◀] [▶] キーで 10 単位で設定する。
 - b. [ダイヤル] を回して 1 単位で目的の値に合わせる。
 - c. (PASS) キーで [OFF] にする。
 - 指定する数値は [Sメーター] に比例します。数値が大きいかほど強い信号でないと停止しません。
 - 指定範囲は、OFF、1~255 です。
実際の設定値は (120~230) 内で指定して下さい。
[0] は [OFF] となります。
 - 信号強度が設定値より小さいと、画面下部にスケルチが開いている表示の [S] が表示されても音が出ません。
 - 数字の前に [*] が表示された時は、設定時に受信している信号を検出していることを表しています。
 - レベル・スケルチが設定されると画面上部に [LSQ] と表示されます。

4) ボイス・スケルチの設定

(VSQ) [2V] [3]

信号は受信しているが、音声などが無い状態の時に、無変調と判断して次の電波の検索に行きます。無変調と判断するボリューム値を設定するのがボイス・スケルチです。VFOサーチやVFOスキャン時だけでなく、2VFOやVFO時にも有効となります。

- 受信状態や受信モードによりボイス・スケルチの設定を行ってください。
- この設定を行う場合は目的の電波、または同程度に聞こえる電波を受信しながら行います。(音量ボリュームには関係しません。)

1. [▼] キーを押して、[VOICE]の行にカーソルを合わせる。

2. 次のいずれかにより設定変更する。

- [ダイヤル] を回して1単位で目的の値に合わせる。
- [◀] [▶] キーで10単位で目的の値に合わせる。
- (PASS) キーで[OFF]にする。

■設定範囲は OFF、1～255 です。

実際の設定値は(1～160)内で指定して下さい。

[0] は [OFF] になります。

■音量が設定値より小さいと、画面下部にスケルチが開いている表示の[S]が表示されても音が出ません。

■数字の前に[*]が表示された時は、設定時に受信している信号の音声などを検出していることを表しています。(話している時に点灯し、会話がとぎれた時に消える程度が適当です。)

■ボイス・スケルチが設定されると画面上部に[VSQ]と表示されます。

5) フリーサーチの設定

(FRE) [2V] [4]

VFOサーチ時に、信号を受信して停止していても、指定時間が経過したら、次の周波数の検索を開始させる設定です。

1. [▼] キーを押して、[FREE]の行にカーソルを合わせる。

2. 次のいずれかにより設定変更する。

- (PASS) キーで、[5秒/OFF]を切り替える。
- [ダイヤル] を回して1秒単位で目的の値に合わせる。
- [◀] [▶] キーで10秒単位で目的の値に合わせる。

■時間の設定範囲は OFF～60秒 です。

[00] は [OFF] です。

■ディレイ時間で[HOLD]を選択した場合、フリーサーチは無効です。

■フリーサーチが設定されると画面上部に[FRE]と表示されます。

6) オート・ストア (AS)

VFOサーチ時に、受信した周波数を次々と自動的にメモリchの[J]バンクに登録していく機能です。

1. [FREE]の行から[▼]キーを押すと、[AUTO STORE]の画面になる。
2. [◀] [▶] キーまたは、[ダイヤル] で[ON/OFF]を反転させて選ぶ。

- もし同じ周波数が[J]バンク内のメモリchに書き込まれていたら、新たに登録しません。(上下約±10kHz以内なら同じ周波数とみなします。)
- 登録されたメモリchには[AUTO STORE]とタイトルが付きます。
- [J]バンクに空き(ブランク)のメモリchがない場合は登録できません。

● [J]バンクのメモリchを消去するには、

1. [▼]キーを押して[DELETE J]の行にカーソルを移動します。
2. (PASS) キーを押すと[J]バンクの内部chすべてが削除されます。

- オート・ストアが設定されると画面上部に[AS]と表示されます。

7) クイック・メモ (Q.M) (2V) (5)

クイック・メモを実行する時間を設定します。この時間を設定すると2VFO、VFO時に、信号を指定時間以上受信した場合、自動的にクイック・メモにその周波数がメモリされます。(クイック・メモについては、8-8 P.112 参照)

1. [AUTO STORE]の画面から[▼]キーを押すと、[QUICK MEMORY]の画面になる。
2. 次のいずれかにより設定変更する。
 - a. [ダイヤル]を回して10秒単位で目的の値に合わせる。
 - b. [◀] [▶] キーで100秒単位で目的の値に合わせる。
 - c. (PASS) キーを押すと[OFF]になる。

- 時間の設定範囲は OFF、10~990秒 です。
- [OFF]にすると自動的にメモリされません。
(手動でメモリすることはできます)

8) 設定の登録

設定を登録する場合は、変更後に (ENT) キーを押す。

(CLEAR) キーは今までの操作を取り消して、登録を行いません。

6-3 メモリ chバンクの設定変更

F + **SCAN** キーを 1 秒間 押す

☞ メモリ chバンクのタイトル名やバンクに登録できるメモリ chの数を変更して設定します。

■次の4項目の設定ができます。

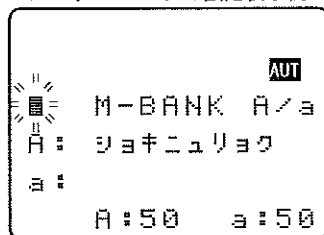
内容	表示	設定値範囲
1) メモリ chバンクを選ぶ	M-BANK	A/a ~ J/j
2) バンクタイトルの変更	BANK-TEXT	A: a:
3) メモリ ch数の変更	M-BANK	大文字 10 ~ 90 / 小文字 90 ~ 10
4) メモリ chバンクの保護	BANK-PROTECT	ON/OFF

操作方法

1) メモリ chバンクを選ぶ

- F** + **SCAN** キーを 1 秒間押す。
 - ☉ [M-BANK] と表示され、メモリ chバンクの設定変更画面になります。
- [ダイヤル] または [◀] [▶] キーを押し、変更したいバンクを選ぶ。
 - ☉大文字、小文字バンクが対になって同時に選択されます。

メモリ chバンクの設定表示例



2) バンクタイトルの変更

[SC] [7]

- [▼] キーを押して、[BANK-TEXT] の画面に移る。
 - 大文字バンクタイトルの書き込み、変更を行う。
(文字の入力は ☞ 基礎編 P.50 を参照)
 - [▼] キーでカーソルを移動させ、小文字バンクタイトルの書き込み変更を行う。
 - ☉バンクタイトルは大文字バンク、小文字バンクの片方だけの変更でもかまいません。
- [▲] キーで大文字の行に戻れます。
 - もし画面に [FUNC] が点滅していたら、**F** キーを押してください。
点滅状態ではカーソルが上下に移動しません。

3) メモリ ch 数の変更 [S C] [8]

大文字バンクのチャンネル数と小文字バンクのチャンネル数の合計を100chとして、10ch単位でその数の割振りを変更できます。

1. バンクタイトルの操作画面から、[▼] キーを押す。

◎【M-BANK】の表示と、変更したいバンク番号が表示されます。

2. [ダイアル] または [◀] [▶] キーで、割振りを変更する。

※例 Aバンク：30ch aバンク：70ch (合計100ch)
Dバンク：80ch dバンク：20ch (合計100ch)

◎設定範囲は 10ch/90ch ~ 90ch/10chです。

◎(PASS) キーを押すと大文字、小文字バンクが50:50になります。

3. (ENT) キーを押す。

◎確認画面になり【MEM SORTING】と表示されます。

4. 確認して良ければ (PASS) キーを押す。

◎【MEM SORTING !!】と表示され、チャンネル数の割振り変更が行われます。

NOTE ◎メモリ ch 数の割振り変更には時間がかかります。

◎変更途中で電池がなくならないように、できるだけ外部電源をつないだ状態で行ってください。万一、変更途中で電池がなくなると動作不良になる場合があります。

◎そのバンクに、割振られた数を超えた番号のメモリ chがあった場合、そのメモリ chは消去されます。

※例 D:40 d:60に設定すると、
チャンネル番号(D41)以降があった場合消去される。

4) メモリ ch バンクの保護 [S C] [9]

メモリ ch バンクの保護を設定すると、バンク内のchの変更、書き込み、消去、およびメモリ ch バンクの消去などができなくなります。大事なメモリ ch の設定を誤操作などから守る時に設定します。

1. メモリ ch 数変更操作画面から、[▼] キーを押す。

◎1行目に【BANK-PROTECT】と表示され、下に変更したいバンク番号が表示されます。

2. [◀] [▶]、(PASS) キーを押し、[ON/OFF] を反転させて選択する。

◎[▼] キーを押しカーソルを下げれば、小文字バンクの保護設定に移ります。



- ◎保護設定されたメモリchの変更が再度必要な時は、一度保護設定を解除してから受信モード、周波数などの変更を行い、再度保護をかけることになります。
- ◎「6-1」で設定した、スキャン環境の設定内容は保護されません。

5) 設定の登録

- ENT キーを押して、それまでの設定を登録する。

第7章 スキャン、サーチの編集、削除

7-1	スキャン、サーチデータ の編集	8 2
1)	メモリ chのコピー	8 3
2)	メモリ chバンクのコピー	8 4
3)	サーチバンクのコピー	8 5
4)	メモリ chの移動	8 5
5)	メモリ chの交換	8 5
6)	メモリ chの内容変更	8 6
7)	メモリ chの保護	8 7
8)	サーチバンクの保護	8 7
7-2	受信中のメモリ chの消去 ..	8 8
1)	メモリ ch読み出し からの消去	8 8
2)	スキャン中のメモリ ch消去 ..	8 8
7-3	受信中のサーチバンクの消去	8 9
7-4	登録内容の消去・解除	9 0
1)	サーチバンクの消去	9 0
2)	周波数パスの解除	9 1
3)	VFO周波数パスの解除	9 1
4)	バンク内のメモリ ch全消去 ..	9 1
5)	セレクト ch全解除	9 2
6)	メモリ chの保護全解除	9 2
7)	メモリ chパス全解除	9 2
7-5	周波数パス編集	9 3
1)	周波数パスの解除	9 3
2)	周波数パスの追加	9 4
3)	周波数パスの変更	9 4

EDIT

7-1 スキャン、サーチデータの編集

F + **8HR** キーを押す

🔑 サーチバンク、メモリ ch、メモリ chバンクの設定内容を、コピー（複写）したり、移動・変更を行います。
 例えば、オート・ストア機能で一時的に [J] バンクに取り入れた周波数データを、簡単に新しいバンクに移し替えることができます。

■ 次の8項目の編集ができます。

内 容	表 示
1) メモリ ch のコピー	COPY MEM-CH
2) メモリ chバンクのコピー	COPY MEM-BNK
3) サーチバンクのコピー	COPY SEARCH
4) メモリ ch の移動	MOVE MEM-CH
5) メモリ ch の交換	SWAP MEM-CH
6) メモリ ch の内容変更	EDIT MEM-CH
7) メモリ ch の保護	MEM PROTECT
8) サーチバンクの保護	SRCH PROT

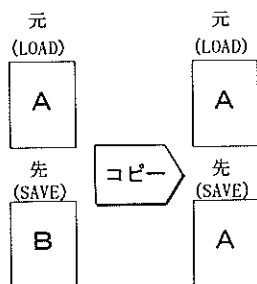


- ◎ 各編集機能へは、[▼] [▲] キーで移動します。
- ◎ 設定後、実行するには (PASS) キーを押します。
- ◎ 操作を終了する場合は、(ENT) または、(CLEAR) キーを押します。
- ◎ (PASS) キーを押した動作を実行してしまうと、後から (CLEAR) キーを押しても元の状態には戻りません。

■ 「コピー」・「移動」・「交換」について

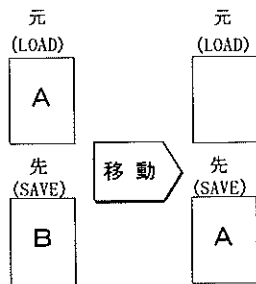
元 (LOAD) と先 (SAVE) の関係は次のようになります。

● コピー [COPY]



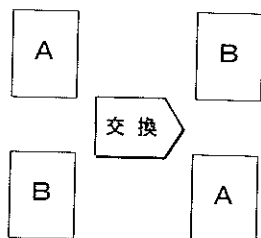
複写先の内容「B」が「A」に変わり（上書き）、複写元と同じになります。

● 移動 [MOVE]



移動先の内容「B」が「A」に変わり（上書き）、移動元の内容は、消えます。

●交換〔SWAP〕



互いの内容が入れ替わります。

操作方法

1) メモリ ch のコピー

メモリ ch の内容を別のメモリ ch に複写します。

1. **F** + **8HR** キーを押す。

◎画面に〔COPY MEM-CH〕と表示されます。

2. 複写元〔LOAD〕のメモリ ch 番号を選ぶ。

◎〔ダイヤル〕、〔◀〕〔▶〕キー、または〔数字キー〕で目的のメモリ ch 番号を入力します。

3. **▼** キーを押す。

4. 同じように複写先〔SAVE〕のメモリ ch 番号を選ぶ。

5. **PASS** キーを押して実行する。

※例 メモリ ch 〔A10〕の内容を〔c25〕に複写。
 (〔c25〕の内容を〔A10〕と同じにする)

F + **8HR**

〔COPY MEM-CH〕と表示される

1AK **1AK** **0JT**

〔LOAD〕(元)に〔A10〕を入力



下の行に移動

Aa (小文字表示)

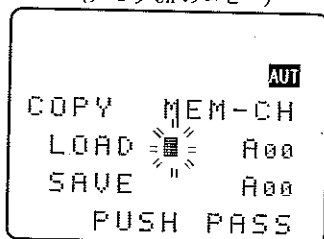
3CM **2BL** **5EO**

〔SAVE〕(先)に〔c25〕を入力

PASS

実行 (複写される)

編集の初期画面
 (メモリ ch のコピー)



◎複写先のメモリ ch に保護が設定されていた場合は実行できません。

◎〔数字キー〕で選ぶ場合はすばやく押してください。

ゆっくり押すとカーソルが戻ってしまい、違う番号になる場合があります。

2) メモリ ch バンクのコピー

[1] [8]

メモリ ch バンク内のすべてのメモリ ch を、別のメモリ ch バンクに複写します。

1. **F** + **8HR** キーを押す。
2. さらに **[▼]** キーを **[COPY MEM-BNK]** と表示されるまで押す。
3. 複写元 **[LOAD]** のメモリ ch バンク番号を選ぶ。
 ◎ **[ダイヤル]**、**[◀]** **[▶]** キー、または **[数字キー]** で目的のメモリ ch バンク番号を入力します。
4. **[▼]** キーを押す。
5. 同じように複写先 **[SAVE]** のメモリ ch バンク番号を選ぶ。
6. **PASS** キーを押して実行する。

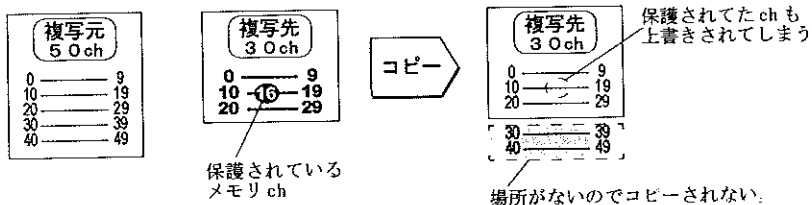
例 メモリ ch バンク **[A]** の内容をバンク **[c]** に複写。
 (**[c]** の内容を **[A]** と同じにする)

- | | |
|------------------------------|------------------------------------|
| F + 8HR | [COPY MEM-CH] の画面になる |
| ▼ ▼ | [COPY MEM-BNK] の画面まで押す |
| 1AK | [LOAD] (元) に [A] を入力 |
| ▼ | 下の行に移動 |
| Aa (小文字表示) 3CM | [SAVE] (先) に [c] を入力 |
| PASS | 実行 (複写される) |

NOTE ◎ 複写先は上書きされるので、複写先バンク内のメモリ ch に保護が設定されていても書き替えてしまいます。

◎ 複写先のメモリ ch バンク自体に保護が設定されている場合は複写できません。

◎ 複写元のメモリ ch 数 (実際に書き込まれている数ではなく、バンクの持っている ch の数) が複写先のメモリ ch 数より多い場合、複写先が持つメモリ ch 数の分だけ複写されます。



(複写元はそのまま残る)

3) サーチバンクのコピー

[2] [8]

サーチバンクの内容を別のサーチバンクに複写します。

1. **F** + **8HR** キーを押す。
2. さらに [**▼**] キーを [COPY SEARCH] と表示されるまで押す。
3. 複写元 [LOAD] のサーチバンク番号を選ぶ。
◎ [ダイアル]、[**◀**] [**▶**] キー、または [数字キー] で目的のサーチバンク番号を入力します。
4. [**▼**] キーを押す。
5. 同じように複写先 [STORE] のサーチバンク番号を選ぶ。
6. **PASS** キーを押して実行する。

NOTE 複写先のサーチバンクに保護が設定されている場合は実行できません。

4) メモリ ch の移動

[3] [8]

メモリ ch を別の番号のメモリ ch に移動します。元のメモリ ch 番号は空になります。

1. **F** + **8HR** キーを押す。
2. さらに [**▼**] キーを [MOVE MEM-CH] と表示されるまで押す。
3. 移動元 [LOAD] のメモリ ch 番号を選ぶ。
◎ [ダイアル]、[**◀**] [**▶**] キー、または [数字キー] で目的のメモリ ch 番号を入力します。
4. [**▼**] キーを押す。
5. 同じように移動先 [STORE] のメモリ ch 番号を選ぶ。
6. **PASS** キーを押して実行する。

NOTE 移動先のメモリ ch に保護が設定されている場合は実行できません。

5) メモリ ch の交換

[4] [8]

2つのメモリ ch の番号を入れ替えます。

1. **F** + **8HR** キーを押す。
2. さらに [**▼**] キーを [SWAP MEM-CH] と表示されるまで押す。
3. [CH-B] の行に、交換したいメモリ ch 番号のうちの1つを入力する。
◎ [ダイアル]、[**◀**] [**▶**] キー、または [数字キー] で目的のメモリ ch 番号を入力します。
4. [**▼**] キーを押す。
5. 同じように [CH-B] にもう一方のメモリ ch 番号を入力する。
6. **PASS** キーを押して実行する。

6) メモリ ch の内容変更

[5] [8]

メモリ ch の内容のすべて、または、一部を変更します。

1. **F** + **8HR** キーを押す。
2. さらに **▼** キーを **[EDIT MEM-CH]** と表示されるまで押す。
3. 変更したいメモリ ch の番号を選ぶ。
 - ◎ **[ダイヤル]**、**[◀]** **[▶]** キー、または **[数字キー]** で目的のメモリ ch 番号を入力します。
4. **▼** キーを押す。
5. **[ダイヤル]** で受信モードを選ぶ。(**[MODE SET]** 画面)
 - ◎ 変更しない場合は **▼** キーを押して次の操作に行きます (以下同じ)。
6. **▼** キーを押す。
7. 周波数ステップを変更する。(**[STEP SET]** 画面)
 - ◎ **[ダイヤル]**、**[◀]** **[▶]** キー、または **[数字キー]** で入力します。
 - ◎ 受信モードで **[AUTO]** を選ぶと、この入力はありません。
8. **▼** キーを押す。
9. メモリ ch の周波数を変更する。(**[FREQ SET]** 画面)
 - ◎ **[数字キー]** で変更する周波数を入力します。
10. **▼** キーを押す。
11. タイトルを書き込む。(**[TEXT SET]** 画面)
 - ◎ **[◀]** **[▶]** キーでカーソルを変更したい文字に移動させ、表示されている文字を **[ダイヤル]** で変えます。(**☞** 基礎編 P.50 参照)
12. **ENT** キーを押して、登録する。

例 **例** **[A 29]** の内容を周波数 **11.945MHz**、タイトルを **[BBC]** に変更する。

- F** + **8HR** [COPY MEM-CH] の画面になる
- ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼** (10回押す) [EDIT MEM-CH] の画面に移る
- 1AK 2BL 9IS** ▼ [A 29] ch を入力 (図1)
- ▼** オートモードを選択
- 1AK 1AK .Aa** [11.945] MHz を入力 (図2)
- 9IS 4DN 5EO** ▼

図1 A 29 を入力

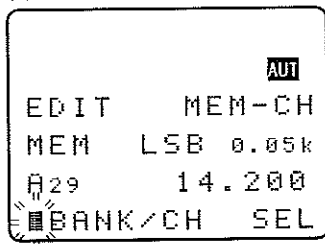
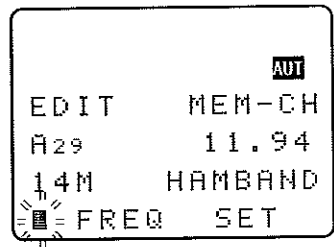


図2 11.94 まで入力したところ



(3CM) キーを押し[ダイアル]で[B]を捜す ▶ [B]を入力

(3CM) キーを押し[ダイアル]で[B]を捜す ▶ [B]を入力

(3CM) キーを押し[ダイアル]で[C]を捜す ▶ [C]を入力 (図3)

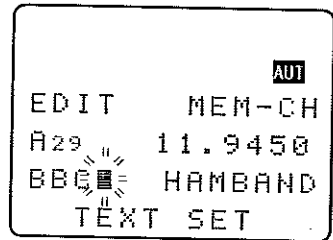
(PASS)

カーソル以降の文字を消す
(入力完了)

(ENT)

登録

図3
[C]まで入力
したところ



NOTE [EDIT MEM-CH]画面の最初から、一度も操作を行わないで[▼]キーを押すと次項の[メモリchの保護]の項目に行きます。

7) メモリchの保護 [6][8]

変更したメモリchが重要な場合、操作ミスなどにより消去、変更されないよう保護します。
(☞ 基礎編4-3 P.52 参照)

1. [EDIT MEM-CH]または[TEXT SET]画面より、1行目に[MEM PROTECT]と表示されるまで、[▼]キーを押す。
2. メモリch番号を選ぶ。
◎ [ダイアル]、[◀] [▶] キー、または[数字キー]で入力します。
3. (PASS) キーで[ON/OFF]を選ぶ。
4. (ENT) キーを押して登録する。

8) サーチバンクの保護 [7][8]

重要なサーチバンクの場合、操作ミスなどにより消去したり、変更しないように保護します。
(☞ 基礎編4-2 P.48 参照)

1. [MEM PROTECT]の画面より[SRCH PROT]と表示されるまで、[▼]キーを押す。
2. サーチバンク番号を選ぶ。
◎ [ダイアル]、[◀] [▶] キー、または[数字キー]で入力します。
3. (PASS) キーで[ON/OFF]を選ぶ。
4. (ENT) キーを押して登録する。

7-2 受信中のメモリchの消去

F + **9IS** キーを押す

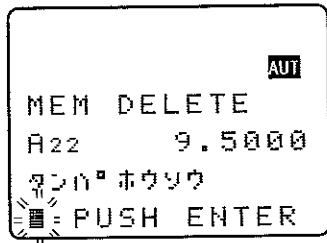
☞ 受信しているメモリchを1チャンネルずつ消去します。

操作方法

1) メモリch読み出しからの消去

1. 消去するメモリch番号を読み出す。
2. **F** + **9IS** キーを押す。
◎ [MEM DELETE] と表示され、
確認画面になります。
3. **ENT** キーを押すと、消去される。

メモリch消去確認画面例




2) スキャン中のメモリch消去

1. スキャンで目的のメモリchを受信し、停止させる。
2. **F** + **9IS** キーを押す。
◎ [MEM DELETE] の確認画面になります。
3. **ENT** を押すと、消去される。
◎ 続いてメモリchの検索を再開します。

NOTE ◎一度消去したメモリchは復活することはできません。再度メモリch書き込み操作を行うことになります。
◎ここでは1chチャンネルずつの消去ですが、1バンク内のメモリchすべてを消去する方法もあります。(☞ 7-4 P.91 参照)

7-3 受信中のサーチバンクの消去

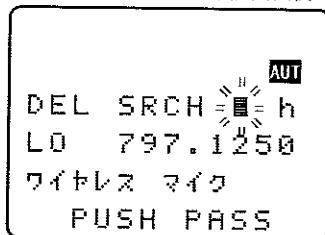
F + **9IS** キーを押す

 受信しているサーチバンクを1バンクずつを消去します。

操作方法

1. 消去するサーチバンクを受信する。
2. **F** + **9IS** キーを押す。
◎【DEL SRCH】の確認画面になります。
3. **PASS** キーを押すと、消去される。
4. **ENT** キーを押すとサーチの状態に戻る。

サーチバンクの消去確認画面例



NOTE 一度消去したサーチバンクのデータは復活することはできません。再度サーチバンクの登録をすることになります。(☞ 基礎編 4-2 P.46 参照)

7-4 登録内容の消去・解除

(F) + **(9IS)** キーを 1秒間 押す

☞ サーチバンクの設定内容や、メモリ ch バンク内の内容をバンク単位で消去します。また、セレクト ch や、バンク内の周波数パス、メモリ ch の保護などの指定を一括で解除します。

◎一度消去したデータは再度1つつ入力し直さなければ復活できません。
データの消去は注意して行ってください。

■この操作では、次の7項目の消去・解除ができます。

内 容	表 示
1) サーチバンクの消去	DEL SRCH
2) 周波数パスの解除	DEL PASS
3) VFO周波数パスの解除	VFO-PASS
4) バンク内のメモリ ch 全消去	MEM-BANK
5) セレクト ch 全解除	SEL-CH
6) メモリ ch の保護全解除	CH PROTECT
7) メモリ ch パス全解除	DEL MEM PASS

操作方法

- 各項目へは [**▲**] [**▼**] キーで移動できます。
- **(PASS)** キーを押した時点で、選択項目を消去、解除します。
- **(ENT)** キーまたは、**(CLEAR)** キーで操作を終了します。

1) サーチバンクの消去

サーチバンクの登録内容を消去します。

安全のため1バンクずつしか消去できません。複数のバンクを消去する場合は同じ操作を繰り返してください。

1. **(F)** + **(9IS)** キーを 1秒間 押す。
 - ◎ 画面に [DEL SRCH] と表示されます。
2. 消去したいバンクを [ダイヤル] または [**◀**] [**▶**] キーで選ぶ。
 - ◎ バンク番号が1行目右端に表示され、2行目、3行目にその内容が表示されます。
3. **(PASS)** キーを押す。

2) 周波数パスの解除

1つのサーチバンク内に登録されているすべての周波数パス設定を解除します。
サーチバンクを新たに登録し、以前の周波数パスを消去したい時などにこの操作をします。

1. **F**+**(9IS)** キーを 1秒間 押し、**[DEL SRCH]** の画面にする。
2. **[ダイヤル]** または、**[◀]** **[▶]** キーで、消去したい周波数パスのあるバンクを選ぶ。
3. **[▼]** キーを押す。
 - ◎ 3行目に **[DEL PASS]** と表示され、周波数パス解除の画面になります。
 - ◎ **[DEL PASS]** の次の数字は、そのバンクに登録されている周波数パスの数を表します。**[---**]と表示されたらバンク内に周波数パスの登録はありません)
4. **(PASS)** キーを押す。

NOTE 個々のパスを変更、解除、追加する時は、周波数パス編集で行います。
(**7-5 P.93** 参照)

3) VFO周波数パスの解除

[1][9]

VFOサーチに登録されている周波数パスをすべて解除します。

1. **F**+**(9IS)** キーを 1秒間 押し、**[DEL SRCH]** の画面にする。
2. **[▼]** キーを 2回 押し。
 - ◎ 2行目に **[VFO-PASS]** と表示され、VFO周波数パス解除の画面になります。
 - ◎ **[VFO-PASS]** の次の数字は、そのVFOサーチに登録されている周波数パスの数を表します。
(**[---**]と表示されたらVFOサーチ内に周波数パスの登録はありません)
3. **(PASS)** キーを押す。

4) バンク内のメモリ ch 全消去

[2][9]

1つのメモリ chバンク内に登録されている、すべてのメモリ chを消去します。
オート・ストア機能のために **[J]** バンク内を空にする時などにこの操作をします。

1. **F**+**(9IS)** キーを 1秒間 押し、**[DEL SRCH]** の画面にする。
2. **[▼]** キーを 3回 押し。
 - ◎ 2行目に **[MEM-BANK]** と表示され、メモリ ch 全消去の画面になります。
3. **[ダイヤル]** または **[◀]** **[▶]** キーで消去したいバンクを選ぶ。
4. **(PASS)** キーを押す。
 - ◎メモリ chの保護が設定されている chは消去されません。

5) セレクト ch 全解除 [3][9]

セレクト・スキャンに登録してあるすべてのメモリ ch の登録を解除します。

1. **F** + **9IS** キーを 1 秒間 押し、**[DEL SRCH]** の画面にする。
2. **[▼]** キーを 4 回 押し。
◎ 2 行目に **[SEL-CH]** と表示され、セレクト ch 全解除の画面になります。
3. **(PASS)** キーを押す。
◎ メモリ ch 自体やその周波数データなどは消えません。

6) メモリ ch の保護全解除 [4][9]

すべてのメモリ ch の保護設定を解除します。

1. **F** + **9IS** キーを 1 秒間 押し、**[DEL SRCH]** の画面にする。
2. **[▼]** キーを 5 回 押し。
◎ 1 行目に **[CH PROTECT]** と表示され、メモリ ch の保護解除の画面になります。
◎ すべてのメモリ ch の中から保護設定されているものを検索するので、表示まで少し時間がかかります。
3. **(PASS)** キーを押す。
◎ メモリ ch 自体やその周波数データなどは消えません。

7) メモリ ch パス全解除 [6][9]

すべてのメモリ ch パス設定を解除します。

1. **F** + **9IS** キーを 1 秒間 押し、**[DEL SRCH]** の画面にする。
2. **[▼]** キーを 6 回 押し。
◎ 1 行目に **[DEL MEM PASS]** と表示され、メモリ ch パス全解除の画面になります。
◎ すべてのメモリ ch の中からパス登録されているものを検索するので、表示まで少し時間がかかります。
3. **(PASS)** キーを押す。
◎ メモリ ch 自体やその周波数データなどは消えません。

■各操作は、**(ENT)** キーまたは、**(CLEAR)** キーで終了します。

7-5 周波数パス編集

(PASS) キーを 1 秒間 押す

☞ サーチバンクやVFOサーチに登録されている周波数パスの解除、追加、変更を行います。

■途中で **(SCAN)**、**(SRCH)**、**(2VFO)**、**(CLEAR)** キーなどを押すと操作を中止します。

操作方法

<準備>

サーチバンク内の周波数パスを編集する場合は、動作モードをサーチにします。
VFOサーチの周波数パスを編集する場合は、動作モードを2VFOにします。

1) 周波数パスの解除

1. **(PASS)** キーを 1 秒間 押す。
 - ◎サーチバンクの周波数パスの場合
画面1行目に【SRCH PASS #】(←サーチバンク番号)と表示されます。
 - ◎VFOサーチの周波数パスの場合
画面1行目に【VFO PASS】と表示されます。
2. 【ダイヤル】、【◀】【▶】、【数字キー】などでバンクを選ぶ。
 - ◎VFOサーチの場合この操作は必要ありません。
3. 【▼】キーを押し、2行目へ。
4. 【ダイヤル】で削除したい周波数を捜す。
 - ◎2行目の【PASS】の後の2桁番号は、登録された順に便宜的に付けられた番号です。
 - ◎周波数パスが1つも登録されていない時は【PASS 00】が表示され、3行目が【-----】となります。
5. **(0JT)** キーを押し、周波数の欄に【0】を入力する。
 - ◎なおこの時、**(PASS)** キーを押すとそのバンクのすべての周波数パス設定が解除されます。
6. **(ENT)** キーを押す。
 - ◎その周波数パスが解除され、以降の2桁番号が1つずつ繰り上がります。

2) 周波数パスの追加

1. **(PASS)** キーを 1 秒間 押す。
2. [ダイヤル]、[◀] [▶]、[数字キー] などでバンクを選ぶ。
◎VFOサーチの場合この操作は必要ありません。
3. [▼]キーを押し、2行目へ。
4. [ダイヤル]で最後の番号を捜す。
◎最後の番号は、3行目が「-----」となっています。
5. [数字キー]で追加したい周波数を入力する。
6. **(ENT)** キーを押す。

3) 周波数パスの変更

1. **(PASS)** キーを 1 秒間 押す。
2. [ダイヤル]、[◀] [▶]、[数字キー] などでバンクを選ぶ。
◎VFOサーチの場合この操作は必要ありません。
3. [▼]キーを押し、2行目へ。
4. [ダイヤル]で変更したい周波数の番号を選ぶ。
5. [数字キー]で変更したい周波数を入力する。
6. **(ENT)** キーを押す。

例、サーチバンク[B]の中の周波数パスを1つ解除し、新たに137.53MHzのパス周波数を追加登録する。

(SRCH)

動作モードをサーチにする

(PASS) 1秒間押す

周波数パス編集の画面へ

(2BL) ▼

[B] バンクを選ぶ (図1)

[ダイヤル]

目的の周波数を選ぶ

(0JT)

周波数欄に [0] を入力 (図2)

図1

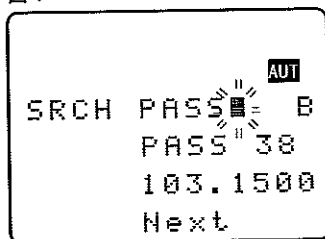
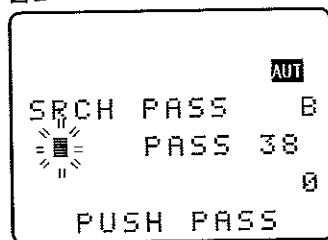


図2



ENT

周波数パスが削除される

[ダイヤル]

最後の番号を選択 (図3)

1AK 3CM 7GQ
Aa 5EO 3CM

[1 3 7 . 5 3]MHz を追加 (図4)

ENT

登録

図3

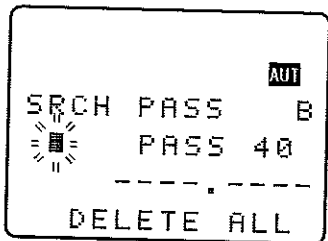
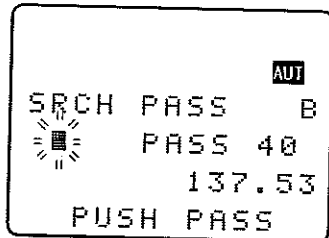


図4



NOTE

- ◎周波数の入力方法は (基礎編 4-1 P.45) を参照してください。
- ◎入力できる周波数はkHz単位までです。
- ◎1つのパス周波数を登録するとその周波数の上下約10kHzの範囲の周波数がすべてパスされます。
- ◎受信周波数範囲内なら、どの周波数でもパス登録できますが、選択したサーチバンクあるいはVFOサーチの周波数帯の範囲内であれば無意味です。
(周波数を判断する時間が余計にかかってしまいます)

第8章 その他の登録

8-1	アッテネータ	98
8-2	ノイズリミッタ	99
8-3	AFC	100
8-4	オフセット	101
1)	オフセット受信をする	101
2)	オフセット周波数を設定する	102
8-5	ステップ・アジャスト	103
1)	ステップ周波数入力による 自動設定	104
2)	アジャスト周波数の 手動入力	105
8-6	受信機の操作設定(コンフィグ)	106
1)	ビープ音量	106
2)	照明	107
3)	LCDコントラスト	107
4)	パワーセーブ	107
5)	オート・パワーオフ	108
6)	リモート	108
7)	周波数表示	109
8)	書き込み禁止	109
9)	オープニング・メッセージ	110
8-7	スリープ	111
8-8	便利な操作	112
1)	[数字キー] で先に バンク、ch を選ぶ	112
2)	クイック・メモ	112
3)	テキスト検索	113
4)	ショート・カット・キー	114
5)	ポケベル方式の 文字入力方法	115
6)	[数字キー] + [方向キー] による文字入力方法	116

ATT

8-1 アッテネータ

F + **1AK** キーを押す

☞ 受信周波数の近くに強力な電波があると、目的の電波が受信しにくくなる場合があります。このような受信妨害状態を軽減するのがアッテネータ(減衰機能)です。

受信状況により設定してください。

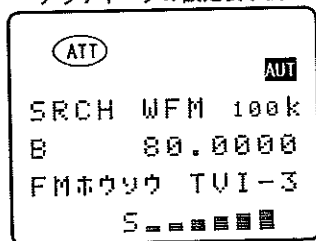
- スキャンや、メモリ ch 読み出しの時にアッテネータを設定すると、その時受信しているメモリ ch に設定されます。
- サーチの時にアッテネータを設定すると、その時のサーチバンクに設定されます。

操作方法

F + **1AK** キーを押す。

- ◎ その時受信しているメモリ ch やサーチバンクにアッテネータが設定され、画面に「ATT」と表示されます。
- ◎ アッテネータは約10 dBに設定されています。
- ◎ 解除するときは、そのメモリ ch やサーチバンクで再度**F** + **1AK** を押します。

アッテネータの設定表示例



8-2 ^{NL} ノイズリミッタ

F + **1AK** キーを 1 秒間 押す

☞ AM、USB、LSBなどの受信中にバリバリやパリパリと聞こえるパルス性の雑音(バイクなどから発生するイグニッションノイズなど)を減少させます。

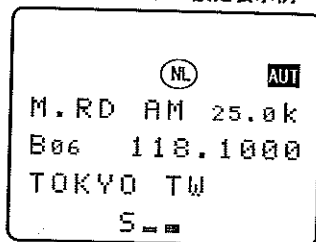
- スキャンや、メモリ ch 読み出しの時にノイズリミッタを設定すると、その時受信しているメモリ ch に設定されます。
- サーチの時にノイズリミッタを設定すると、その時受信していた周波数に自動的に設定されます。

操作方法

F + **1AK** キーを 1 秒間 押す。

- ◎ その時受信しているメモリ ch やサーチの周波数にノイズリミッタが設定され、画面に「NL」と表示されます。
- ◎ 解除する時は、そのメモリ ch やサーチの周波数で再度 **F** + **1AK** キーを 1 秒間押します。

ノイズリミッタの設定表示例



8-3 AFC

F + **0 JT** キーを 1秒間 押す

受信する電波の周波数に、受信機側の周波数を自動的に合わせる機能です。インターリーブ（通常割り当てられた周波数ではなく、地区によってその隙間の周波数を使う）などに対して、自動的に周波数を合わせます。

- NFM、SFM、WAM、AM、NAMの受信モードで設定が可能です。
- WFMでは設定できません。
- スケルチが開かないと動作しません。
- スキャンや、メモリch読み出しの時にAFCを設定すると、その時のメモリchに設定されます。
- サーチの時にAFCを設定すると、その時受信していた周波数に自動的に設定されます。

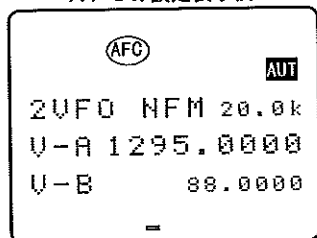
操作方法

F + **0 JT** キーを押す。

◎その時受信しているメモリchやサーチの周波数にAFCが設定され、画面に【AFC】と表示されます。

◎解除するときは、そのメモリchやサーチの周波数で再度**F** + **0 JT** を押します。

AFCの設定表示例



NOTE

- ◎周波数を合わせる範囲は受信モードや電波の受信強度により異なりますが、 $\pm 5 \text{ kHz}$ から $\pm 15 \text{ kHz}$ 程度です。最大 $\pm 25 \text{ kHz}$ まで働きます。
- ◎AFCを設定すると、受信周波数に対して 1.5 kHz 以内で停止します。
- ◎停止した時の周波数表示の精度は、受信機自体の周波数精度とAFCの停止誤差が加わります。

8-4 オフセット

MONI キーを押す ◀ 受信

(F) + [Aa] キーを押す ◀ 設定

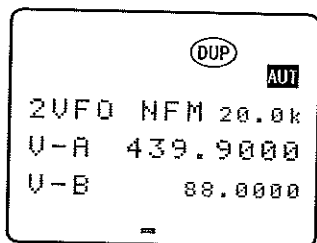
- ☞ 送信と受信で周波数が違う通信(リピーターやデュプレックス通信のように親機側と子機側で別の周波数を使用して通信している場合など)の時、送受信の周波数を切り替えて受信します。
2つの周波数の差をオフセット周波数と呼びます。

操作方法

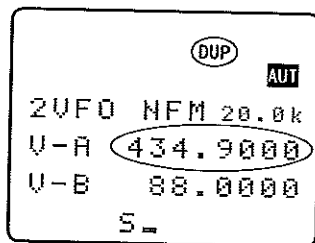
1) オフセット受信をする

画面に「**DUP**」と表示されて信号に限り、オフセット受信が可能です。

MONI キーを押す。



MONI キーを押すと⇒



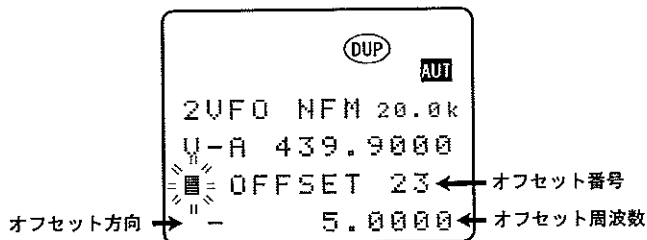
2) オフセット周波数を設定する

オートモードで受信している周波数では、自動的に設定されています。
(しかしこのように使用されている周波数帯は全体の一部だけです)

1. (F) + (Aa) キーを押す。

2-a. オフセット周波数を既定値から選ぶ。

- ◎ [ダイヤル] または [◀] [▶] キーで選びます。
- ◎ 20番以降がオートモードで使用している周波数です。
ほとんどのオフセット周波数はこの中にあるはずです。
- ◎ [OFF] でオフセット機能がOFFとなり、[DUP] 表示が消えます。



2-b. オフセット周波数を直接書き込む。

- ◎ [ダイヤル] または [◀] [▶] キーでユーザー領域の番号 [01] から [19] の中から、書き込みたい番号を選ぶ。
- ◎ [数字キー] で周波数を入力する。
- ◎ [0] MHz を入力すると消去されます。

3. オフセット方向を入力する。

- ◎ (PASS) キーで [+] [-] を選ぶ。
- ◎ [+] [-] の表示は、受信している周波数にオフセット周波数を加えるか、減らすかを意味します。

4. (ENT) キーを押す。



- ◎ オフセット周波数は47種類設定できます。
- ◎ 番号 [00] は変更できません。
- ◎ 番号 [01] ~ [19] には0MHz ~ 999.999MHz までの周波数を書き込めます。
- ◎ 番号 [20] ~ [47] はオートモードで使用していますので周波数の変更ができません。しかしこの数値で設定する事はできます。
- ◎ AR 8200 のオートモードやメモリ ch などでは、オフセット周波数はすべてオフセット周波数表の番号と + / - の方向のみを記憶して、管理しています。

8-5 ステップ・アジャスト

F + **2 BL** + **PASS** キーを押す

ステップ周波数で割り切れない、特殊な周波数配列の信号を正確に受信するための機能です。

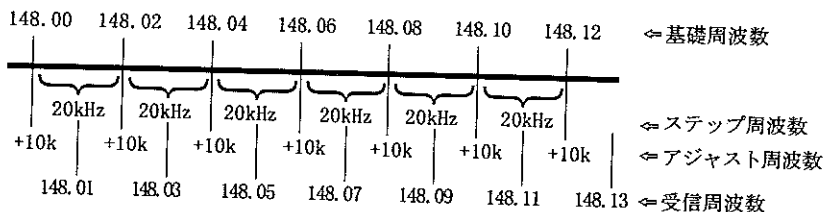
オートモードでは、自動的にステップ・アジャストが行われますが、以下の方法によって、個別に設定することも可能です。

◎AR8200のステップ・アジャスト機能は、通常のステップ周波数を基礎に指定のアジャスト周波数を自動的に加える弊社独自の方法を採用しています。

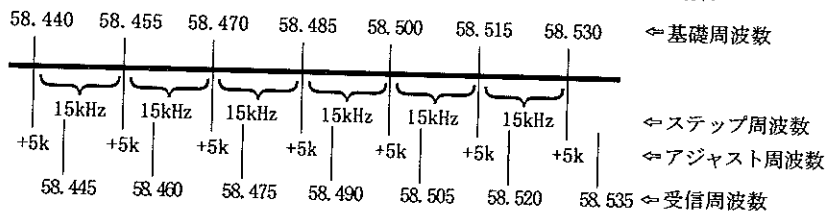
◎この方法により一定の間隔(ステップ)に配置してあるすべての周波数に対応することができます。

■ステップ・アジャストの考え方

例1 20kHzステップの信号を、10kステップ・アジャストした場合



例2 15kHzステップの信号を、5kステップ・アジャストした場合



◎基礎周波数とは正常なステップで計算した内部処理上の周波数で、
(基礎周波数+アジャスト周波数=受信周波数) となります。

◎基礎周波数は必ずステップ周波数で割り切れます。
(受信周波数/ステップ周波数=整数)

◎アジャスト周波数はステップ周波数より必ず小さい数になります。

(この2例は実際にオートモードで設定されています)

1) ステップ周波数入力による自動設定

<準備> 2VFOにしておく。

1. **F** + **2BL** + **PASS** キー を押す。

◎ステップ周波数[STEP]とアジャスト周波数[ADJ+]が表示されます。
(再度 **PASS** キー押すと消えます)

2. ステップ周波数を[ダイヤル]、[数字キー]などで入力する。

3. **ENT** キーを押す。

◎カーソルが[ADJ+]の行に行きますが、ここで入力の必要はありません。

4. **ENT** キーを再度押す。

◎2VFOの画面に戻ります。

5. [数字キー]で受信したい周波数の一つを入力する。

◎受信する周波数を入力することにより、ステップ周波数から自動的にアジャスト周波数を計算して、目的の周波数配列を受信できるようになります。

6. **ENT** キーで受信する。

例 145.210MHzから14kのステップで並ぶ、次の周波数配列を受信できるように設定してみる。

145.210	145.224	145.238	145.252
145.266	145.280	145.294	145.308

(実際にある周波数配列ではありません)

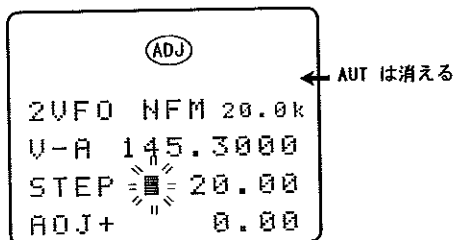
<準備> **2VFO**

2VFOにする

F **2BL** **PASS**

ステップ・アジャストのモードにする(図1)


図1
ステップアジャスト
モードにしたところ



1AK 4DN ENT

ステップ周波数を入力して登録(図2)

図2
ステップ周波数を入力

```
ADJ
2VFO NFM 20.0k
V-A 145.3000
STEP 14.00
ADJ+ 7.00
```

基礎周波数から
自動計算された
アジャスト周波数

ENT

アジャスト周波数は自動計算のままでよい

1AK 4DN 5EO

周波数を入力する

·Aa 2BL 1Ak

ENT

受信する(図3)

図3
上段に目的の
周波数を入力

```
ADJ
2VFO NFM 14.0k
V-A 145.2100
V-B 76.1000
S _ _ _ _ _
```

◎ [ダイヤル] を回していくと、例にあげた周波数列が次々に受信できます。

2) アジャスト周波数の手動入力

<準備> 2VFOにしておく。

1. (F) + (2BL) + (PASS) キー を押す。
2. ステップ周波数を [ダイヤル]、[数字キー] などで入力する。
3. [▼] キーを押す。
4. アジャスト周波数を [数字キー] で入力する。
5. (ENT) キーを押す。

NOTE

8.33 kHz またはこれに類似したステップ周波数を入力してステップ・アジャストを行った場合、期待通りには動作しません。

8-6 受信機の操作設定 (コンフィグ)

F + **7 GQ** キーを押す

☞ 操作設定 (コンフィグ) は、受信機の操作や動作などの前提となる環境を設定して、登録します。

■コンフィグでは、次の10項目を設定できます。

内容	表示	設定値範囲
1) ビープ音量	BEEP	OFF/1~9
2) 照明	LAMP	AUTO/CONT/OFF
3) LCDコントラスト	CONTRAST	32段階
4) パワーセーブ	DELAY	OFF/1~30秒
	CYCLE	0.5~9.5秒
5) オート・パワーオフ	PWR-OFF	OFF/0.5~9.5時間
6) リモート	REMOTE	4800/9600/19200
	RMT-ID	00 (通常) ~99
7) 周波数表示	FREQ-DISP	ON/OFF
8) 書き込み禁止	WRITE PROT	ON/OFF
9) オープニング・メッセージ	OPENING	NORM/QUICK/USER

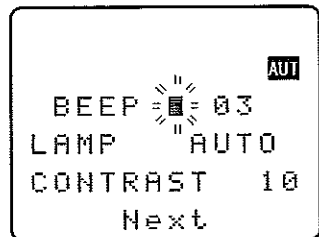
操作方法

- ◎各項目へは [**▲**] [**▼**] キーで移動します。
- ◎登録する場合は変更後に (**ENT**) キーを押します。
- ◎(**CLEAR**) キーは、それまでの変更を取り消し、登録を行いません。

1) ビープ音量

ビープ音 (キータッチ音)、操作エラー音の音量を調節します。

1. **F** + **7 GQ** キーを押す。
 - ◎ [BEEP] の行でカーソルが点滅します。
2. [ダイヤル] または、[**◀**] [**▶**] キーで値を選ぶ。
 - ◎このとき数値に相当する音量でビープ音が鳴ります。
 - ◎ [OFF] に設定すると、音が出なくなります。



NOTE [OFF] を選んだ場合ビープ音だけでなく、エラー音も出なくなります。

2) 照明

[1][7]

LCD画面内の照明をどう点灯させるかを設定します。

1. [▼] キーを押して [LAMP] の行にカーソルを移す。
2. [ダイヤル] または、[◀] [▶] キーで以下のいずれかを選ぶ。
[AUTO] = キー操作後、約5秒間の自動点灯
[CONT] = 連続点灯
[OFF] = 点灯しない

◎ (PASS) キーを押すと [AUTO] になります。

NOTE 外部電源や充電器を使用して受信している場合は、この設定に関係なく充電状態の確認として連続点灯します。

3) LCDコントラスト

[2][7]

LCD画面は、周りの明るさや見る角度で見やすさが変わるため、コントラスト（明暗）を調整して見やすい状態にします。

1. [▼] キーを押して、[CONTRAST] の行にカーソルを移す。
2. [ダイヤル] または、[◀] [▶] キーで値を選ぶ。

◎ (PASS) キーを押すと [14] になります。

(受信機により14が最適状態とは限りません)

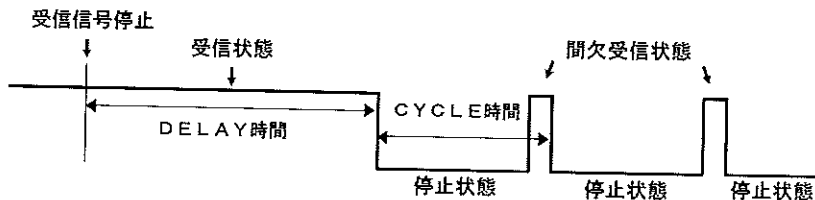
4) パワーセーブ

[3][7]

電池の消耗を防ぐための機能です。

◎一定の周波数を長時間受信していて、受信信号がなくなったにもかかわらず、手動操作も行われない場合に作動します。

◎受信信号の有無を指定の間隔で確認し、それ以外の時は受信動作を停止させます。

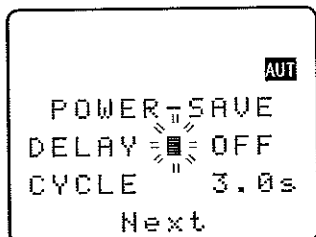


DELAY時間 = 最後の操作、受信信号がなくなってからパワーセーブ動作を開始するまでの時間。

CYCLE時間 = 確認間隔。この間隔で受信を試みて信号を確認します。

1. [▼] キーを押して、[POWER-SAVE] の画面を表示させる。
2. [ダイヤル] を回すか [◀] [▶] キーでディレイ [DELAY] 時間を選ぶ。
 - ◎設定値範囲 OFF、01～30秒
 - ◎ (PASS) キーを押すと [OFF] になり、パワーセーブは行いません。
 - ◎ディレイ時間が短いと、通信相手が出ないうちにパワーセーブ動作になります。少し長めに設定した方が安定して受信できます。
3. [▼] キーで次の行へ。
4. [ダイヤル] または、[◀] [▶] キーでサイクル [CYCLE] 時間を選ぶ。
 - ◎設定値範囲 0.5～9.5秒

パワーセーブの設定画面

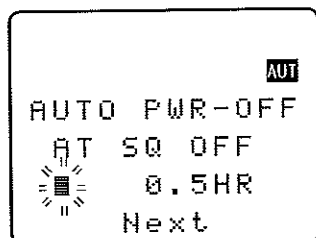


5) オート・パワーオフ [4][7]

長時間一定の周波数を受信している場合、受信信号がなくなったにもかかわらず、手動操作もしない時、設定時間後に電源を自動的に切ります。
(待ち受け受信等を目的にする場合はこの機能を使用しないで下さい)

1. [▼] キーを押して、[AUTO PWR-OFF] の画面を表示させる。
2. [ダイヤル] または、[◀] [▶] キーで設定値を選ぶ。
 - ◎設定値範囲 OFF、0.5(30分)～9.5時間
 - ◎ (PASS) キーを押すと [OFF] になりオート・パワーオフを設定しません。

オート・パワーオフの設定画面



6) リモート [5][7]

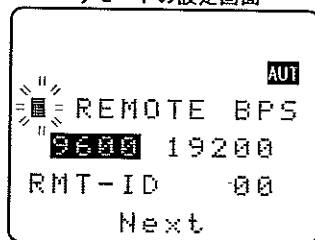
CC8200 (リモートケーブル) を使用してコンピュータによるリモートコントロールを行う場合の通信条件を登録します。

1. [▼] キーを押して、[REMOTE BPS] の画面を表示させる。
2. [ダイヤル] または、[◀] [▶] キーで通信速度を選ぶ。
 - ◎設定値範囲 (BPS=通信速度) 4800/9600/19200
 - ◎ (PASS) キーを押すと [9600] になります。
3. [▼] キーで [RMT-ID] の行へカーソルを移動する。

4. [ダイヤル] または、[◀] [▶] キーでRMT-ID番号を選ぶ。

- ◎通常は必ず[00]として下さい。
- ◎ **(PASS)** キーを押すと[00]になります。
- ◎複数の受信機を同時に使用する場合に限り、RMT-ID番号を設定します。
- ◎同時につなぐ受信機はすべて違う番号にします。
- ◎設定値範囲 00~99

リモートの設定画面



NOTE コンピュータと接続した場合、通信速度が合っていないと、正常な動作ができません。(詳しくはCC8200の取扱説明書をご覧ください)

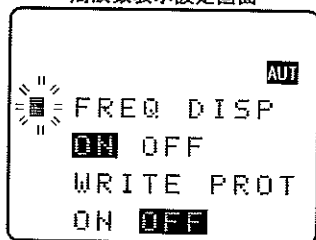
7) 周波数表示

[6] [7]

この設定を[OFF]にするとサーチ、メモリch読み出し、スキャン時の周波数を表示しません。

1. [▼] キーを押して、[FREQ DISP]の画面にする。
2. [ダイヤル]、[◀] [▶]、または、**(PASS)** キーで切り替えて[ON/OFF]を選ぶ。
[ON] = 周波数を表示します。
[OFF] = サーチ、メモリch読み出し、スキャン時に周波数を表示しません。

周波数表示設定画面



8) 書き込み禁止

[1] [6]

内部メモリの書き込み、変更すべてを禁止します。操作や設定をしても無効になるので、通常は必ず[OFF]にしておきます。

1. [▼] キーを押して、[WRITE PROT]の行にカーソルを移動する。
2. [ダイヤル]、[◀] [▶]、または、**(PASS)** キーで切り替えて[ON/OFF]を選ぶ。
[ON] = すべての書き込みを禁止します。
[OFF] = 通常の書き込みできる状態です。

9) オープニング・メッセージ

[2] [6]

電源を入れた時に最初にLCD画面に表示されるメッセージ内容を登録します。

1. [▼]キーを押して、[OPENING MESSAGE]の画面を表示させる。(図1)

図1
オープニング・
メッセージ初期画面



2. [ダイヤル] または、[◀] [▶] キーで以下の種類を選ぶ。
[NORM] = 工場出荷時の表示です。
[QUICK] = メッセージを表示せずに動作を開始します。
[USER] = ユーザーが書き込んだ文字を表示します。
◎ (PASS) キーを押すと [NORM] になります。

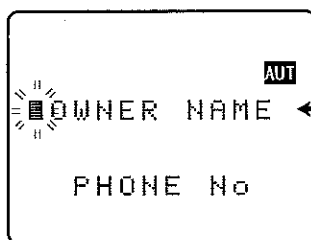
3. [USER] を選んだ場合は [▼] キーを押し、文字を入力する。(図2)

◎画面全体が文字入力画面になります。

[◀] [▶] [▲] [▼] キーで自由にカーソルを移動できます。

(☞ 文字の入力方法は基礎編 P. 50 参照)

図2
[USER] の
文字入力画面



← この文字も消して
書き替えられます。

4. (ENT) キーで登録する。



[USER] 部に使用者の連絡先、氏名などを入れておき、通常は [QUICK] を選択すると実用的です。

8-7 スリープ



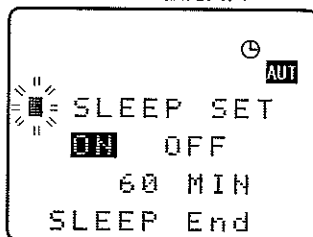
F + **Aa** キーを 1 秒間 押す

- ☞ 指定時間を経過すると自動的に電源を切る機能です。
10分から120分までの時間を設定でき、設定の度に1回だけ実行されます。
次に電源を入れた時、設定は解除されています。

操作方法

- F** + **Aa** キーを 1 秒間 押す。
- [ダイヤル]、[◀] [▶]、または **PASS** キーで切り替えて [ON/OFF] を選ぶ。
[ON] = スリープが設定されて画面に [⌚] が表示される。
[OFF] = スリープを設定しない (解除する)。
- 設定時間に変更がない場合は **ENT** キーを押す。
- [ON] を選び、設定時間を変更する場合は [▼] キーを押す。
- 次のいずれかの操作により、電源を切る時間を選ぶ。
 - [ダイヤル] を回し、1分単位で設定する。
 - [◀] [▶] キーで、10分単位の設定する。
 - PASS** キーを押すと60分 (1時間) の設定になる。
- ENT** キーで登録する。

スリープ設定画面



8-8 便利な操作

1) [数字キー] で先にバンク、ch を選ぶ

2VFOの状態からスキャン、メモリ ch 読み出し、サーチをしたい場合、チャンネル番号やサーチバンク番号を [数字キー] で先に入力して呼び出すことができます。

操作方法

2VFOの状態から

[数字キー]+ (SCAN) スキャン、メモリ ch 読み出し

[数字キー]+ (SRCH) サーチ

例

(3CM) (SCAN)

[Cバンク] のスキャンになる。

(1AK) (2BL) (4DN) (SCAN)

[A24] のメモリ ch 読み出しになる。

(Aa) (0Jt) (1AK) (SRCH)

[aバンク] のサーチになる。

2) クイック・メモ (Q. M)[2V][5]

VFO、2VFOで一定時間以上受信していた周波数は、自動的に記憶されていて、簡単に呼び出すことができます。

- ◎最近受信した10個の周波数を記憶しています。
- ◎10個を超えて、新たに周波数が書き込まれると、一番古い周波数が消えます。
- ◎VFOサーチ時の動作環境設定 (☞ 6-2 P.77 参照) で受信からメモリするまでの時間を設定できます。

操作方法

1. 手動でクイック・メモに記憶させる。

(ENT) キーを押す。

◎通常の受信時 (VFO、2VFOでスケルチが開いている状態) で押せば、その時点で記憶されます。

2. クイック・メモを呼び出す。

a. (2VFO) キーを押して2VFOにする。

b. (F) + [◀] [▶] 操作で選ぶ。

◎クイック・メモを呼び出している時は画面に [★] が点灯します。



- ◎ スキャン、サーチ等で停止していた場合は書き込まれません。
一度 **(ENT)** キーを押しVFOにして、この後再度 **(ENT)** キーを押すと記憶されます。
- ◎ 周波数のみ記録されているので受信モード、ステップなどはVFO、2VFOの受信モードのままです。(オートモードならば自動で変わります)
- ◎ クイック・メモ受信時に
 - **(2VFO)** キーを押すと通常の2VFOに戻ります。
 - 新たな周波数を入力すると通常の2VFOに戻ります。
 - [ダイヤル] を回すと読み出した周波数で2VFOになります。

3) テキスト検索

サーチバンクやメモリchの番号が分からなくなった場合に、タイトルの文字から検索して呼び出すことができます。

例

検索文字 [ホウソウ]
探し出したタイトル [タン白[○]ホウソウ] [ホウソウ白] [AM ホウソウ] など

操作方法

1. **(F)** + **(ENT)** キーを押す。
◎ [TEXT SET] の画面になります。
2. 検索文字を2文字以上入力する。
◎ 1文字では検索できません。2文字以上指定してください。
3. **(ENT)** キーで検索を開始する。
 - ◎ 検索には多少時間がかかります。
 - ◎ 呼び出すメモリchやバンクは1回の検索につき1つです。
 - ◎ 検索結果が目的のメモリch、バンクでなかった場合は、再度、操作1からくり返してください。次に該当するメモリch、バンクを検出します。
(なお、検索文字はそのまま残っていますので、入れ直す必要はありません)

4) ショート・カット・キー

各種の設定を早く行いたい場合、キーの組合せで直接目的の設定に行くことができます。

操作方法

F キーを1秒押した後 ([**FUNC**] 点滅状態) で、次の2つのキーを同時に押す。

<p>●サーチ時の動作環境</p> <p>(SRCH) + (1AK) グループ環境番号・リンクの選択 (2BL) ディレイ時間 (3CM) レベル・スケルチ (4DN) ボイス・スケルチ (5EO) フリー (6FP) オート・ストア</p>	<p>●スキャン時の動作環境</p> <p>(SCAN) + (1AK) グループ環境番号・リンクの選択 (2BL) ディレイ時間 (3CM) レベル・スケルチ (4DN) ボイス・スケルチ (5EO) フリー (6FP) モード・スキャン (7GQ) メモリ ch バンク名変更 (8HR) メモリ ch 数変更 (9IS) メモリ ch バンクの保護</p>
<p>●VFOサーチ時の動作環境</p> <p>(2VFO) + (1AK) ディレイ時間 (2BL) レベル・スケルチ (3CM) ボイス・スケルチ (4DN) フリーサーチ (5EO) クイック・メモ</p>	<p>●受信機の操作設定 (コンフィグ)</p> <p>(7GQ) + (1AK) 照明 (2BL) LCDコントラスト (3CM) パワーセーブ (4DN) オート・パワーオフ (5EO) リモート (6FP) 周波数表示</p> <p>(6FP) + (1AK) 書き込み禁止 (2BL) オープニング・メッセージ</p>
<p>●スキャン・サーチの編集、削除</p> <p>(8HR) + (1AK) メモリ ch バンクのコピー (2BL) サーチバンクのコピー (3CM) メモリ ch の移動 (4DN) メモリ ch の交換 (5EO) メモリ ch の内容変更 (6FP) メモリ ch の保護 (7GQ) サーチバンクの保護</p>	<p>●登録内容の消去</p> <p>(9IS) + (1AK) VFO周波数パスの解除 (2BL) バンク内のメモリ ch 全消去 (3CM) セレクト ch 全解除 (4DN) メモリ ch の保護解除 (5EO) メモリ ch パス全解除</p>

◎一連の操作で最初に出てくる項目は含まれていません。

5) ポケベル方式の文字入力方法

ポケベルの伝言メッセージと同じ様に [数字キー] の組合せで、カナ、アルファベット (大文字)、数字、記号などを入力できます。

操作方法

Ⓟ キーを1秒間押した後 ([FUNK] 点滅状態で) 縦の [数字キー] + 横の [数字キー] の順に押す。

		2 番目に押す									
		(1AK)	(2BL)	(3CM)	(4DN)	(5EO)	(6FP)	(7GO)	(8HR)	(9IS)	(0JT)
最初に押す	(1AK)	ア	イ	ウ	エ	オ	ア	B	C	D	E
	(2BL)	カ	キ	ク	ケ	コ	F	G	H	I	J
	(3CM)	サ	シ	ス	セ	ソ	K	L	M	N	O
	(4DN)	タ	チ	ツ	テ	ト	P	Q	R	S	T
	(5EO)	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	U	U	W	X	Y
	(6FP)	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	Z	?	!	-	/
	(7GO)	マ	ミ	ム	メ	モ	¥	&	-		
	(8HR)	ハ	(ユ)	ヨ	*	#	_		
	(9IS)	ラ	リ	ル	レ	ロ	1	2	3	4	5
	(0JT)	ワ	ヲ	ン	ッ	マ	6	7	8	9	0

[_] はスペースを表す

6) [数字キー]+[方向キー]による文字入力方法

[数字キー]と[方向キー]の組合せで、数字やアルファベット（大文字・小文字）などを入力できます。

[数字キー]に表示されている数字やバンク番号のアルファベット（(1AK)なら[1]と[↑]と[←]）がそのまま入力できるので、わかりやすく簡単です。（[U～Z]、記号などは例外）

操作方法

① キーを1秒間押した後（[FUNG]点滅状態で）[数字キー]+[方向キー]の順に押す。

		2番目に押す			
		→	↑	←	↓
最初に押す	(1AK)	1	A/a	K/k	U/u
	(2BL)	2	B/b	L/l	V/v
	(3CM)	3	C/c	M/m	W/w
	(4DN)	4	D/d	N/n	X/x
	(5EO)	5	E/e	O/o	Y/y
	(6FP)	6	F/f	P/p	Z/z
	(7GQ)	7	G/g	Q/q	ö
	(8HR)	8	H/h	R/r	ü
	(9IS)	9	I/i	S/s	&
	(0JT)	0	J/j	T/t	␣

␣はスペースを表す

NOTE アルファベットの小文字を入力したい場合は、
 (・Aa) キー+ [数字キー]+ [方向キー]の順に操作します。

第9章 知っておきたいこと

9-1	特殊操作	118
1)	ハングアップ時のリセット操作	118
2)	各種設定内容を初期値に戻す..	118
3)	LCDの全セグメント を点灯させる	118
9-2	故障かな? と思う前に.....	119
9-3	オプション端子	120
1)	アクセサリ端子	120
2)	カード・スロット	120
9-4	オプション	121
9-5	オプションの操作	122
1)	カードの取り付け	122
2)	V18200	122
3)	CT8200	123
4)	TE8200	125
5)	RU8200	126
6)	EM8200	127
7)	CO8200	130
9-6	注意事項	132
9-7	アフターサービスについて..	134
9-8	AR8200 一般仕様	135

9-1 特殊操作

内部動作のチェックや今後の改良に対応できるように特殊操作を設定してあります。

1) ハングアップ時のリセット操作

外部電源を外し、電池を1つ外す。

- ◎ AR 8200 にはリセットスイッチがありません。ハングアップした時は外部電源などを外した後、電池を1つ瞬間的に外すとリセットがかかります。
- ◎ AR 8200 では必要なデータはすべて内部メモリ（フラッシュROM）に書き込まれているため、内部バックアップ電池が不要で、バックアップ電池消耗によるメモリ不良が発生することはありません。

2) 各種設定内容を初期値に戻す

CLEAR キーを押しながら電源を入れる。

- ◎ **CLEAR** キーを押しながら電源を入れると、起動メモリ部がイニシャライズされ、各種設定内容が初期値に戻り、基本的受信状態になります。これは、万一起動メモリ部のデータが異常な状態になり、起動できなくなるのを回避するための措置です。受信動作がおかしくなったと感じた時などにこの操作を行います。
- ◎ イニシャライズされると、以下の状態になります。
 - ・ VFO-A、B は、88MHz WFM になります。
 - ・ サーチ、スキャンなどのグループ環境番号は [0] 番になり、動作データはすべて初期値になります。
 - ・ メモリ ch、スキャンなどのデータは消えません。

- NOTE** ◎ 特定のバンクやメモリ ch で操作が不能（バンクアップ）になる場合も同様に **CLEAR** キーを押しながら電源を入れて、基本的受信状態に戻してください。この場合、内部データが不正に書き替えられていると考えられますので、復帰後に該当するバンクやメモリ ch を消去し、新たに書き直してください。
- ◎ 上記のような現象がひんぱんに発生する場合は、内部の故障と考えられますので、お手数でもお買い上げの販売店、またはエーオーアール・サービス課にご相談ください。

3) LCDの全セグメントを点灯させる

0JT キーを押しながら電源を入れる。

- ◎ 電源を切るまでLCD画面のすべてのセグメントが点灯され続けます。

9-2 故障かな？ と思う前に

修理をご依頼になる前に、もう一度次のことをご確認ください。
それでも故障と思われるときはお買い求めの販売店、または弊社にご相談ください。

症状	原因	処置
電源が入らない	電池が消耗している	充電するか、電池を交換する 外部アダプターを使用する
受信しない	スケルチ調整が誤っている	スケルチ調整を正しく行う
受信が途切れる	交信局の電波が弱い	MOII キーを押す 受信位置を移動してみる
	アッテネータ機能がはたらいている 【LSQ】、【VSQ】が表示されている	アッテネータ (ATT) を解除する レベル・スケルチ、ボイス・スケルチを調整する、解除する
混信する	近くに強力な電波がある	アッテネーターをONにする
スケルチが効かない	【LSQ】、【VSQ】が表示されている	レベル・スケルチ、ボイス・スケルチを調整する、解除する
音がおかしい	誤った受信モードで受信している	受信モードを正しく選ぶ 受信モードを【AUT】にする
ときどき音が切れる キーを押しても 動作しない	プライオリティ機能が動作している 【OP】が表示されている	プライオリティ機能を解除する (約 1 秒)
	【◎】が表示されている	(ENT) キーを押し、リモート を解除する
周波数が入力できない	受信周波数範囲でない周波数を入力している	周波数の単位を確認して入力し直す
サーチができない	スケルチ調整不良	スケルチ調整を正しく行う
サーチで特定周波数を 受信しない	【HLD】が表示されている	ホールドを解除する
	周波数パスになっている	周波数パスを解除する
スキャンができない	該当するメモリ ch がない	スキャン条件を確認する
	すべての ch がパスされている	メモリ ch パスを解除する
サーチ/スキャンで停 止しない	【LSQ】、【VSQ】が表示されている	レベル・スケルチ、ボイス・スケルチを調整する、解除する
	【CTC】が表示されている	CTCSS を解除する、外す
USB、LSBが反対になる	【U 63】などが表示されている	ボイス・インバートを解除する
充電しない	カーアダプターのフェューズが切れている	フェューズを交換する
書き込みできない 内容の変更ができない	保護が設定されている	サーチバンク、メモリ ch、メモリ ch バンクの保護を解除する
	電池が消耗している	充電する 電池を交換する
メモリ ch 読み出しや スキャン時に短時間操 作が不能になる	【ダイヤル】か【方向キー】が押され、 次のメモリ ch を捜している	各バンクに平均してメモリ ch を 登録し直す

9-3 オプション端子

1) アクセサリー端子

◎アクセサリー端子（本体横の端子）には次の出力があります。

ミュート	0V（スケルチ全開） 5V（スケルチ閉）
受信信号	10kΩ以上（ボリュームに影響されません）
検波出力	10kΩ以上（NFM（SFM）の検波器直接出力）
RS232C用	TXD RXD （RS232Cには直接つなげません）
電源	4.2V（20mA程度取れます）
AGC出力	10kΩ以上（無信号時 約3.5V～ 強信号時 約0.5V）

■指定コネクタのケーブル色と端子名

色	端子名	色	端子名
赤	+4.2V	白	TXD
黒	RXD	黄	GND
青	GND	緑	受信信号
茶	ミュート	灰	検波出力
橙	AGC出力	紫	GND
シールド	GND		

ホシデン（株）
TCX5110を使用

NOTE 内部構造の関係で電源出力電圧がCMOS出力の[H]レベルより低くなっています。
直接ICを接続する場合などはポートのラッチアップに注意してください。

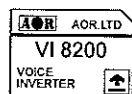
2) カード・スロット

次の端子があります。

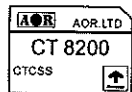
電源（4.2V）	
アース	
カード認識端子	
音声入力端子	
音声出力端子	
カード制御入力端子	
カード制御出力端子	（制御入出力端子はユニット毎に使用方法が変わります）

9-4 オプション

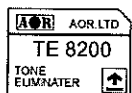
■カード・ユニット (AR8200 底部にどれか1つ入れることができます)



- VI 8200 ボイス・インバーター・カード
音声反転型の秘話解読ができます。
157 段の調節が可能です。



- CT 8200 CTCSS (トーン・スケルチ) カード
トーン・スケルチと呼ばれる低周波数の選局呼び出し信号を選局して受信します。
CTCSS 50 周波数の設定、CTCSS 周波数検索ができます。



- TE 8200 トーン・エリミネーター・カード
256 段の調節ができます。



- RU 8200 ICレコーダー・カード
電子録音、再生ユニットです。
約20秒の録音、再生ができます。



- EM 8200 外部メモリ・カード
内部メモリのバックアップなどに使用できます。
メモリ ch 4000 ch、サーチ160バンクなど4台分をメモリできます。

■オプション・ケーブル

- CC 8200 リモート・ケーブル
コンピューターのRS232C端子に接続し、リモート・コントロールするためのケーブルです。DOS/V用(インチネジ)とPC98用(ミリネジ)があります。
- CR 8200 外部録音用ケーブル
カセットテープ等に受信信号を録音するためのケーブルです。
- CO 8200 コピー・ケーブル
AR8200間でデータのやり取り、クローンができます。

■ソフトケース

- SC 8200 クリアのソフトケースです。

■アンテナ

- DA 3000 屋外用ディスコーン・アンテナ 25MHz~1300MHz
- SA 7000 屋外用広帯域ホイップ・アンテナ 30kHz~2000MHz
- RA 2700 携帯用ロッドアンテナ 全長60cm 低い周波数受信用
- LA 320 屋内用ループアンテナ 1.5~5MHz、5~15MHz
 - LA 320L LA320用オプションエレメント 200~530kHz
 - LA 320H LA320用オプションエレメント 530~1600kHz
- ABF 125 VHF AIR BAND用アンテナフィルター

9-5 オプションの操作

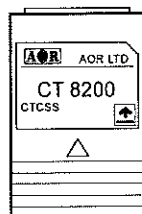
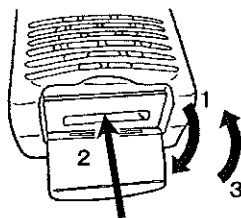
CLEAR キーを 1 秒間 押す

1) カードの取り付け

- カードの出し入れは必ず電源を切った状態で行ってください。
- このスロットはCPUが直接制御する端子なので純正カード以外の物は使用しないでください。純正カード以外を接続した場合はCPUが誤動作を起したり、破損などの回復不能な状態になる可能性があります。
- 使用していないカードは端子の保護のため、付属のカード入れに入れて保存して下さい。

操作方法

1. スピーカーの下部分にあるオプションカード・スロットのフタを下げ、開ける。
2. カードのシールの面を上にしてして底面のスロットに差し込む。
◎無理に押し込まないで下さい。内部の端子が破損する恐れがあります。
3. しっかり差し込み、フタをしめる。
4. カードを取り出す場合はフタを開け、本体横のイジェクト・ツマミを上上げる。
◎カードを落とさないようにして下さい。



この面を上にする

2) ボイス・インバーター・カード「VI 8200」

- 「VI 8200」を装着することにより、音声反転型の秘話解読が可能になります。
- 157段の調節ができます。

●数値と周波数の関係 (通常 3, 2k前後がよく使用されています)

数 値	周波数	数 値	周波数	数 値	周波数
0	2.4 k	37	2.8 k	64	3.2 k
86	3.6 k	102	4.0 k	116	4.4 k
128	4.8 k	138	5.2 k	146	5.6 k
154	6.0 k	156	6.15 k		

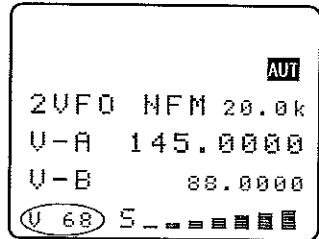


操作方法

信号を受信している状態でを行います。

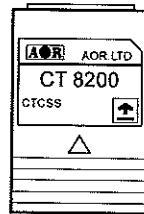
1. **CLEAR** キーを1秒間押す。
2. **PASS** キーで[ON/OFF]を選ぶ。
◎反転している文字が有効です。
3. [ダイヤル]または[◀][▶]キーで聞きやすい数値を選ぶ。
◎[◀][▶]キーを押した場合、10単位で変わります。
4. **ENT** キーを押す。
◎周波数表示に戻り、画面4行目に[U68]などと数値が表示されます。
5. **CLEAR** キーを1秒間押すと解除されます。

ボイス・インバーター動作表示例



3) CTCSS・カード(トーン・スケルチ)「CT8200」

- 「CT8200」を装着することにより、トーン・スケルチと呼ばれる音声より低い周波数の選択呼び出し信号を受信します。
- CTCSS 50周波数の設定ができますので特殊な周波数にも対応できます。



●CTCSS周波数表(Hz)

94.8	100.0	103.5	107.2	110.9
114.8	118.8	123.0	127.3	131.8
136.5	141.3	146.2	151.4	156.7
162.2	167.9	173.8	179.9	186.2
192.8	203.5	210.7	218.1	225.7
233.6	241.8	250.3	67.0	71.9
74.4	77.0	79.7	82.5	85.4
88.5	91.5	97.4	69.4	159.8
165.5	171.3	177.3	183.5	189.9
196.6	199.5	206.5	229.1	254.1

[ダイヤル] を上に回すと表示周波数が左から右に移ります。

NOTE ◎メモリchやサーチバンクに登録します。

CT8200カードを取り付け、メモリch読み出し、またはサーチの状態で作ることにより登録されます。

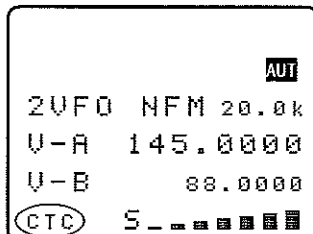
◎CT8200が取り付けられていて、メモリchやサーチバンクに動作が登録されている場合は、自動的に動作します。

CTCSS受信

この設定を行うと、登録したCTCSS信号が送られている信号だけを受信します。

- ◎CTCSS周波数が違うと、受信時に「S」と表示されても音は出ません。
- ◎CTCSS登録されているバンクやチャンネルをサーチ、スキャンした場合でも、CTCSS周波数が違えば信号を受信しても停止しません。

CTCSS受信動作表示例



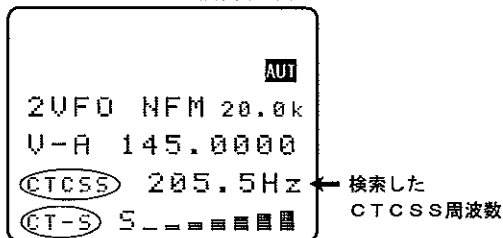
1. **(CLEAR)** キーを1秒間押す。
2. **(PASS)** または **[▲][▼]** キーで **[ON]** を反転させる。
[ON/OFF/SRCH] があります。
3. **[ダイヤル]** または **[◀][▶]** キーで目的の周波数を選ぶ。
 ◎受信している信号に設定中の周波数が検出された場合、CTCSS周波数の前に **[*]** が表示されます。
4. **(ENT)** キーを押す。
 ◎周波数表示に戻り、画面4行目に **[CTC]** と表示されます。
5. 再度 **(CLEAR)** キーを1秒間押し **[OFF]** を選ぶと停止する。

CTCSSサーチ

CTCSSを使用している通信信号のCTCSS周波数を表示します。

1. **(CLEAR)** キーを1秒間押す。
2. **[▲][▼]**、**(PASS)** キーで **[SRCH]** を反転させる。
3. **(ENT)** キーを押す。
 ◎周波数表示に戻り、画面4行目に **[CT-S]** と表示されます。
 ◎CTCSS周波数を検索した場合は3行目に表示されます。

CTCSSサーチ動作表示例



- NOTE** ◎CTCSS信号を捜すのに最大15秒程度時間がかかる場合があります。
 ◎それ以下の通信時間の場合には表示されないことがあります。

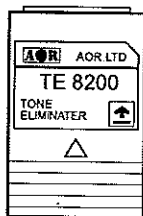
4) トーン・エリミネーター・カード「TE8200」

■ トーン・エリミネーター機能は空線信号と呼ばれる連続したピーという音を取る機能で、弊社が独自につけた名称です。この設定をすれば空線信号がない信号だけを受信します。

◎ 空線信号があると、受信時に「5」表示されますが、音が出ません。

◎ トーン・エリミネーターを登録しているバンクやチャンネルをサーチ、スキャンした場合でも、空線信号があると信号を受信しても停止しません

◎ 255段の調節ができます。



● 周波数 対 数値表 (受信機により違いがあるので目安にしてください)

TONE周波数	数 値	TONE周波数	数 値
0.4 (kHz)	0 ~ 60	2.6	230 ~ 235
0.6	70 ~ 110	3.0	237 ~ 240
1.0	160 ~ 170	3.4	240 ~ 245
1.4	190 ~ 200	3.8	245 ~ 250
1.8	210 ~ 220	4.2	248 ~ 250
2.2	220 ~ 230		

◎ 通常空線信号は2~2.4 kHz程度の周波数が用いられています。

NOTE ◎ メモリchやサーチバンクに登録することができます。

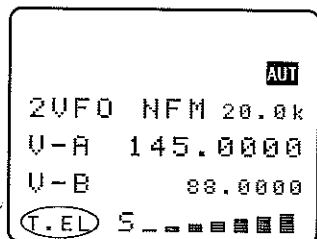
TE8200カードを取り付け、メモリch読み出し、またはサーチ状態で操作することにより登録されます。

◎ TE8200が取り付けられていて、メモリchやサーチバンクに動作が登録されている場合は自動的に動作します。

操作方法

空線信号がある信号を受信している状態で操作します。

1. **CLEAR** キーを1秒間押す。
2. **PASS** キーで「0H」を選ぶ。
3. **[▲]** **[▼]** キーを押すか、**[ダイヤル]** を回して、**[*]** が表示される値を捜す。
◎ いくつかの数値で空線信号を検出した表示**[*]**が出る場合は、中間の数値にしてください。
◎ **[◀]** **[▶]** キーを押すと10単位で値が変わります。
4. **ENT** キーを押す。
◎ 周波数表示に戻り、画面4行目に**[T.EL]**と表示されます。



5) ICレコーダー・カード「RU8200」

■電子録音、再生ユニットです。約20秒の録音、再生ができます。

- ◎スケルチが開いた時に録音が始まります。
- ◎ICレコーダー・カードをAR8200本体から取り外しても録音内容は消えません。
- ◎バンドスコープ時には使用できません。

万一製造上の原因による品質不良がありました場合はお取り換えいたします。
それ以外の責任はご容赦ください。



操作方法

「RU8200」が差し込まれていると画面4行目に【REC】と表示されます。

録音する

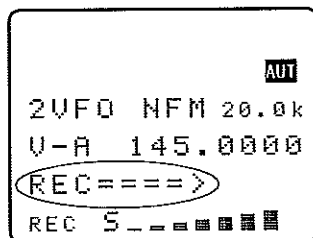
1. **〔CLEAR〕** キーを1秒間押す。
2. **〔ダイヤル〕**、**〔◀〕**、**〔▶〕**、または**〔PASS〕** キーで**〔REC〕**を反転させる。
3. **〔ENT〕** キーを押す。

◎周波数表示に戻り、画面3行目に【===>】と表示されます。

◎【END】と表示されたら録音終了です。

◎**〔CLEAR〕** キーを押すと録音を中断します。

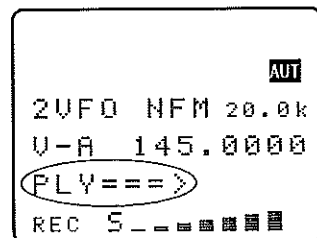
ICレコーダー
録音動作表示例



再生する

1. **〔CLEAR〕** キーを1秒間押す。
2. **〔PLAY〕**が反転していることを確かめ、**〔ENT〕** キーを押す。
 - ◎周波数表示に戻り、画面4行目に【PLAY】と表示されます。
 - ◎画面3行目に【===>】と表示され、【END】と表示されたら終了です。
3. **〔CLEAR〕** キーを押すと元の表示に戻る。

ICレコーダー
再生動作表示例



6) 外部メモリ・カード「EM8200」

外部メモリカードの各ブロックを使用する際には、必ず最初に、オール・セーブをしてください。オール・セーブは、メモリの初期化（イニシャライズ）の役割も兼ねています。



- 外部メモリカードは本体内部のデータをバックアップし、保存するために使用します。
- 外部メモリカードは4つのブロックに分かれています。1つのブロックに本体のメモリすべてを記録することができます。
 - ◎一枚で総計、メモリ ch 4 0 0 0 ch、サーチ 1 6 0 バンクなど4台分の情報を記憶できます。
- 全てのデータを読み込むことも、メモリバンクやサーチバンク別の個々のデータを読み込むことも可能です。
- 外部メモリカードに書き込まれているデータを直接実行することはできません。いったん内部メモリにデータを読み込ませて（[LOAD]して）から実行します。
- セーブ/ロード中は外部メモリカードを絶対に抜かないでください。

NOTE ◎外部メモリを装着していると受信時に雑音が入る場合があります。使用しない時は取り外してください。

万一製造上の原因による品質不良がありました場合はお取り換えいたします。それ以外の責任はご容赦ください。

■セーブとロードの各項目

次の項目について、データのセーブ（保存）とロード（読み込み）が行えます。

1) [ALL-DATA]	オール・セーブまたはオール・ロード
2) [ALL-MEM]	すべてのメモリ ch バンクのデータをセーブまたはロード
3) [MEM-BANK]	個々のメモリ ch バンクのデータをセーブまたはロード
4) [ALL-SEARCH]	すべてのサーチバンクのデータをセーブまたはロード
5) [SEARCH-BANK]	個々のサーチバンクのデータをセーブまたはロード
6) [B-SCOPE]	バンドスコープの波形データをセーブまたはロード

- ◎本体の内部メモリすべてについて、書き込み禁止の設定になっている場合は、ロードできません。
- ◎本体内部の個々のバンクや、メモリ ch が保護されている場合は、無視してロード（上書きコピー）します。
- ◎6) の [B-SCOPE] は、バンドスコープの波形データのロード/セーブで説明します。（☞P. 129 参照）

NOTE 2)～5) の操作を行う時は、間違い防止のため、いったんカードの別のブロックにオール・セーブを行うことをお奨めします。

操作方法

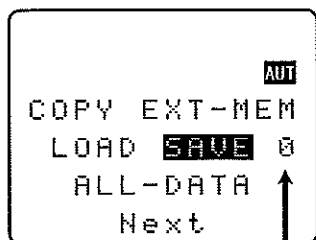
オール・セーブ

本体のメモリすべてをメモリ・カードに保存（バックアップ）します。

初期化も兼ねていますので、初めてそのブロックを使う場合には必ずオール・セーブをしてください。

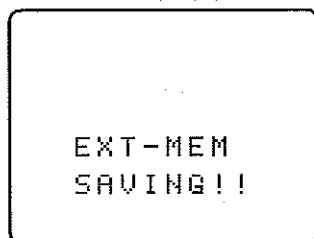
1. **F** + **OJT** キーを1秒間押す。
2. **PASS** キーで **[SAVE]** を反転させる。
3. **[ダイヤル]** または、**[◀]** **[▶]** キーで、セーブするブロック番号を **[0] ~ [3]** の中から選ぶ。
4. **[▼]** キーを押す。
5. **[ダイヤル]** または、**[◀]** **[▶]** キーで **[ALL-DATA]** を選ぶ。
6. **ENT** キーを押す。
◎画面に **[EXT-MEM SAVING !!]** と表示されます。
◎終了したら元の周波数表示に戻ります。

外部メモリ画面



ブロック番号

セーブ中の画面



- NOTE** ◎出荷時点での外部メモリはブランク（空白）の状態です。オール・セーブによって初期化をする必要があります。
- ◎オール・セーブを行わないと、メモリchバンクデータ等の書き込みはできますが、読み出しができなくなります。
- ◎外部メモリには書き込み禁止などの保護機能はありませんので注意してください。

オール・ロード

外部メモリ・カードに記録されたすべてのデータを本体メモリに読み込みます。

1. **F** + **OJT** キーを1秒間押す。
2. **[LOAD]** を確認する。
3. **[ダイヤル]** または、**[◀]** **[▶]** キーで、ロードするブロック番号を **[0] ~ [3]** の中から選ぶ。
4. **[▼]** キーを押す。
5. **[ダイヤル]** または、**[◀]** **[▶]** キーで **[ALL-DATA]** を選ぶ。
6. **ENT** キーを押す。
◎画面に **[EXT-MEM LOADING !!]** と表示されます。
◎終了したら電源を入れた時と同じ状態になります。

- NOTE** ◎オール・ロードを行うと受信機の動作は、そのメモリ・カードによってオール・セーブされた時の状態に戻ります。
- ◎メモリchバンク/サーチバンク/バンドスコープ波形(内部メモリに書き込まれ

ている波形) / スキャン、サーチの動作環境データなどすべてのデータが読み込まれます。

- ◎一度もオール・セーブしたことのないブロックにオール・ロードを試みると、エラー音が出て操作が終了してしまいます。

すべてのバンクのセーブとロード

すべてのメモリ ch バンクまたは、すべてのサーチバンクのデータを転送します。

1. **(F)** + **(OJ)** キーを1秒間押す。
2. **(PASS)** キーで、**[SAVE]** (保存)、または**[LOAD]** (読み込み) を選ぶ。
3. **[ダイアル]** または、**[◀]** **[▶]** キーで、セーブまたはロードするブロック番号を**[0]** ~ **[3]** の中から選ぶ。
4. **[▼]** キーを押す。
5. **[ダイアル]** または **[◀]** **[▶]** キーで項目を選ぶ。
 - ◎メモリ ch バンクすべてなら **[ALL-MEM]** を選びます。
 - ◎サーチバンクすべてなら **[SRCH]** を選びます。
6. **(ENT)** キーを押す。
 - ◎画面に **[EXT-MEM SAVING]** または **[EXT-MEM LOADING]** と表示されます。
 - ◎終了したら元の周波数表示に戻ります。

個々のバンクのセーブとロード

一つのメモリ ch バンクまたは、一つのサーチバンク単位でデータを転送します。

1. **(F)** + **(OJ)** キーを1秒間押す。
2. **(PASS)** キーで **[SAVE]** (保存)、または **[LOAD]** (読み込み) を選ぶ。
3. **[ダイアル]** または、**[◀]** **[▶]** キーで、セーブまたはロードするブロック番号を**[0]** ~ **[3]** の中から選ぶ。
4. **[▼]** キーを押す。
5. **[ダイアル]** または **[◀]** **[▶]** キーで項目を選ぶ。
 - ◎個々のメモリ ch バンクの場合、**[MEM-BANK]** を選びます。
 - ◎個々のサーチバンクの場合、**[SRCH-BANK]** を選びます。
6. **[▼]** キーを押す。
 - ◎バンク部にカーソルが移動します。
7. **[ダイアル]**、**[◀]** **[▶]** キー、または **[数字キー]** でバンクを指定する。
8. **(ENT)** キーを押す。
 - ◎画面に **[EXT-MEM SAVING]** または **[EXT-MEM LOADING]** と表示されます。
 - ◎終了したら元の周波数表示に戻ります。



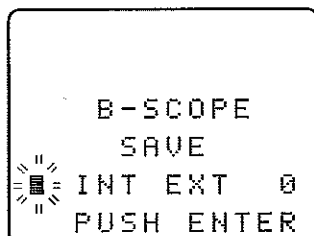
メモリ ch バンクのセーブとロードは同じアルファベットの**大文字**、**小文字**バンクを1組としてまとめて行います。
(例えば、**B** と **b** のバンクをまとめて行い、**B** または **b** 単独の処理はできません)

バンドスコープ波形のセーブ

外部メモリ・カードの各ブロックにバンドスコープ波形（その時点で画面に表示されている波形）のデータを保存します。

＜準備＞「EM8200」をスロットルに差込み、電源を入れてからバンドスコープにする。

1. **ENT** キーを1秒間押す。
(☞ 5-1 P.62 参照)
2. **PASS** キーでセーブ先 [**INT**] (内部メモリ) または、[**EXT**] (外部メモリ・カード) を選ぶ。
3. [**EXT**] の場合、[ダイヤル] または [**◀**] [**▶**] キーでブロック番号を選ぶ。
4. **ENT** キーを押す。

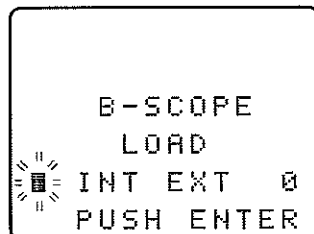


バンドスコープ波形のロード

外部メモリ・カードの各ブロックに記録されているバンドスコープ波形のデータを読み込んで表示します。

＜準備＞「EM8200」をスロットルに差込み、電源を入れてからバンドスコープにする。

1. **F**+**SCOPE** キーを1秒間押す。(☞ 5-1 P.62 参照)
2. **PASS** キーでロード先 [**INT**] (内部メモリ) または、[**EXT**] (外部メモリ・カード) を選ぶ。
3. [ダイヤル] または、[**◀**] [**▶**] キーで、ロードするブロック番号を [0] ~ [3] の中から選ぶ。
5. [**EXT**] の場合、[ダイヤル] または、[**◀**] [**▶**] キーでブロック番号を選ぶ。
6. **ENT** キーを押す。



NOTE 現在表示している波形が必要な場合は先に内部メモリか、外部メモリの他のブロックに保存してください。

7) コピーケーブル「C08200」

■このケーブルで2台のAR8200をつなぎ、データを相互にコピー転送することができます。データコピーには次の項目があります。数字は転送時間

1) [ALL-DATA]	すべてのデータのコピー(クローン)	約8分30秒
2) [ALL-MEM]	すべてのメモリchバンクのデータをコピー	約5分
3) [MEM-BANK]	個々のメモリchバンクのデータをコピー	約30秒
4) [ALL-SEARCH]	すべてのサーチバンクのデータをコピー	約1分30秒
5) [SEARCH-BANK]	個々のサーチバンクのデータをコピー	約3秒

データのセーブとロード

操作方法

<準備>

2台のAR8200をC08200でつなく。
以下の2. 6. 7.を除き、基本的に2台とも同時に同じ操作をします。

1. **F** + **PASS** キーを1秒間押す。
2. **ENT** キーで 受信側なら **SAVE**、送信側なら **LOAD** を選ぶ。
3. **▼** キーを押す。
4. **[ダイヤル]** または **[◀]** **[▶]** キーで以下の操作項目を選ぶ。
[ALL-DATA]、[ALL-MEM]、[MEM-BANK]、
[ALL-SRCH]、[SRCH-BANK] (各項目の機能は表参照)
5. [MEM-BANK]、[SRCH-BANK]を選んだ場合。
 - ① **▼** キーを押す。
 - ◎バンク部にカーソルが移動する。
 - ② **[ダイヤル]**、**[◀]** **[▶]** キー、または **[数字キー]** でバンクを指定する。
6. **[LOAD]** 側の **ENT** キーを押す。
 - ◎ここで **ENT** キーを押すときは必ずロード側から先に押します。
 - ◎画面に **[COPY 232C LOADING]** と表示されます。
7. **[SAVE]** 側の **ENT** キーを押す。
 - ◎画面に **[COPY 232C SAVING]** と表示されます。
 - ◎4行目に数字が表示され、正常に動作している場合は数字が減っていきます。
[0] になったら終了です。
 - ◎終了したら元の周波数表示に戻ります。

データ転送初期画面

```
COPY 232C
LOAD SAVE
ALL-DATA
Next
```

オールデータのセーブ側の画面

```
AUT
COPY 232C
ALL-DATA
SAVING!!
0 → 403
```

0 になったら終了する →

NOTE ◎メモリchバンクのセーブとロードは同じアルファベットの大文字、小文字バンクを1組としてまとめて行います。

(例えば、Bとbのバンクをまとめて行い、Bまたはb単独の処理はできません)

◎バンク番号はセーブ、ロード側で変えることができます。

◎本体の内部メモリすべてについて、書き込み禁止の設定になっている場合は、コピーできません。

◎受信側本体内部の個々のバンクや、メモリchが保護されている場合は、無視して書き換え(上書きコピー)します。

9-6 注意事項

■書き込み禁止、メモリの保護について

データ保護のための機能には、整理すると以下3つの方法があります。

1. 書き込み禁止 (WRITE PROTECT)

◎内部メモリすべての書き込み、変更を禁止します。

☞ 書き込み禁止 (P. 109) を参照

2. バンクの保護 (BANK PROTECT)

◎指定のバンクへの書き込み、変更を禁止します。

サーチバンクの場合 ☞ サーチバンクの登録 (基礎編 P. 48) または、

☞ サーチバンクの保護 (P. 87) を参照

メモリ ch バンクの場合 ☞ メモリ ch バンクの保護 (P. 79) を参照

3. メモリ ch の保護 (MEM PROTECT)

◎指定のメモリ ch への書き込み、変更を禁止します。

☞ メモリ ch の登録 (基礎編 P. 52) または、

☞ メモリ ch の保護 (P. 87) を参照

■ディレー時間とプライオリティ機能の組み合わせについて

ディレー時間 (信号がなくなって次の信号を捜しに行くまで) を長く設定してスキャンやサーチなどを行っている場合、プライオリティ機能を動作させると、ディレー時間中にプライオリティ ch を検索しに行くことがあります。この場合、プライオリティ ch から戻った時には元の周波数には電波がないので、元のディレー時間は継続せず、次の周波数に移行します。

■モード・スキャン機能について

セレクト・スキャン実行時にはモード・スキャン機能は、はたらきません。

■オフセット機能時の操作について

オフセット (基地、移動局の周波数切り替え) された周波数は、メモリ ch や周波数パスへの登録、VFOへの移動、クイック・メモの登録などを行うことはできません。

■CTCSSサーチとプライオリティ ch 機能について

プライオリティ ch 機能を動作させた状態で CTCSS サーチを行うと、CTCSS 周波数を順番に捜す時間が取れないので、正常に動作しません。

■プライオリティ ch 機能とバンドスコープについて

プライオリティ ch 機能を ON にしている場合に、バンドスコープを使用すると機能が解除され、OFF になります。

■スケルチについて

USB、LSB、CW、NAMなどの狭帯域を受信する場合、通常のスケルチ動作が正常に行われない事があります。

これは通常のスケルチ(ノイズ・スケルチ)の基本的な動作原理により発生する現象です。このような場合はレベル・スケルチを使用してください。

またUSB、LSB、CWなどの場合は「S」表示が消えても数秒間はミュートされません。これは変調方式の特性で、電波が断続するため、FMのように瞬時に閉じてしまうと受信音がおかしくなるためです。

■パワーセーブ中の動作について

パワーセーブ動作中にキーを操作すると一時的に反応が遅れることがあります。

■バンドスコープのマーカー周波数を2VFOまたはVFOへ移す操作について

● **F** + **2VFO** で2VFOに移す場合

マーカー周波数が受信周波数になります。

受信モード、周波数ステップは2VFOで設定されているモードや値になります。

● **MONI** + **ENT** を同時に押してVFOに移す場合

マーカー周波数が受信周波数になります。

常に受信モードは[NFM]、周波数ステップは[10k]ステップになります。

その後、目的の受信モード(オートモードなど)、周波数ステップを手動で設定します。

■スキャン/サーチの検索速度について

◎オートモードを指定すると個々の周波数について受信モードや周波数ステップの確認、設定を行うため、検索速度が若干遅くなります。

◎メモリchに入力されている周波数の高低がバラバラだと周波数をロック(PLLが周波数を合わせる)するのに時間がかかります。

周波数順にメモリch番号を割り振ることにより、ロック時間を短縮でき、検索速度が速くなります。

9-7 アフターサービスについて

■保証書

保証書は、必ず「販売店、購入年月日」等の記入をお確かめの上、販売店からお受け取りいただき、保証内容をよくお読みのあと、大切に保管してください。

■保証期間

お買い上げの日から1年間です。

■修理を依頼される時

◎保証期間中の時

おそれ入りますが、お買い求めの販売店まで保証書を添えて製品をご持参ください。保証書の規定にしたがって修理いたします。

◎保証期間が過ぎている時

お買い求めの販売店にまずご相談ください。修理によって機能が持続できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。

■アフターサービス等についてご不明の点は、お買い求めの販売店、または弊社にお問合わせください。

■保証免責事項

おそれ入りますが、次のような場合は保証期間中でも保証修理を免責させていただきます。

◎内部の調整部分などについて、お客様が不当な調整、修理または改造をした場合。

◎内部メモリ（フラッシュROM）の動作主要部分の内容（SYSTEM部）を変更され、それが原因となって動作不良が生じた場合。

◎弊社以外の付属品を使用して、その付属品が故障の原因となった場合。

◎ご使用による損傷。落下、水没などによる故障、破損、および損傷。

◎火災、塩害、ガス害、粉じん、異常電圧、などの災害や地震、風水害、落雷などの自然災害による故障、および損傷。

◎弊社保証規定に合わない場合。

9-8 AR8200 一般仕様

受信範囲	530kHz～2040MHz (一部周波数帯を除く) (表示周波数範囲 100kHz～2040MHz)	
受信モード	WFM、NFM、SFM、WAM、AM、NAM、USB、LSB、CW	
周波数ステップ	17種類の指定周波数ステップ、 または1MHz未満任意設定(50Hzの整数倍であること)	
受信感度	530kHz～ 2MHz	A M: 8.50μV(10dB S/N)
	2MHz～ 30MHz	SSB: 1.50μV(10dB S/N) A M: 2.50μV(10dB S/N)
	30MHz～ 470MHz	SSB: 0.30μV(10dB S/N) A M: 0.70μV(10dB S/N) NFM: 0.35μV(12dB SINAD) WFM: 1.00μV(12dB SINAD)
	470MHz～1000MHz	NFM: 0.50μV(12dB SINAD) WFM: 1.50μV(12dB SINAD)
	1000MHz～1300MHz	NFM: 1.00μV(12dB SINAD)
	1300MHz～2039MHz	NFM: 2.50μV(12dB SINAD)
選択度	SSB/NAM	3kHz (-6dB) 9kHz (-60dB)
	AM/SFM	9kHz (-6dB) 20kHz (-40dB)
	WAM/NFM	12kHz (-6dB) 25kHz (-40dB)
	WFM	150kHz (-3dB) 380kHz (-20dB)
アンテナ・インピーダンス	50Ω/BNC	
低周波出力(4.8V)	120mW(8Ω) THD 10%	
電源電圧	4.8V : Ni-Cad 6.0V : 乾電池 外部電源 : 9.0～16V	
消費電流	定格出力時 190mA(受信周波数により変わります) 待ち受け時 145mA(受信周波数により変わります) 25mA(セーブ状態時)	
メモリ数	チャンネルメモリ: 20バンク×50ch 計1000ch サーチバンク数 : 40バンク 周波数バス : 40バンク×50ch 計2000ch プライオリティ : 1ch	
スキャン・サーチ・スピード	約37ch/sec(step/s) MAX	
動作保証温度範囲	0℃～50℃	
外形寸法	61(W)×143(H)×39(D)mm(突起物含まず)	
重量	335g(NI-CD電池、アンテナ×2、ベルトクリップ含む)	
CPU部	CPU 8bit ROM 61.439Byte RAM 2.048Byte フラッシュROM 524.280bit(64KByte)	

予告なく本機の規格および外観の変更をすることがありますのでご了承ください。

■MEMO

購入販売店名

購入年月日

年

月

日

AR8200 製造番号





株式会社 エーオーアール

〒111-0055 東京都台東区三筋 2-6-4
TEL.03-3865-1681●FAX.03-3862-9927
URL:<http://www.aorja.com>
E-mail:post@aorja.com